明治十八年六月刊行

佛國 警察字典

第壹號

警視廳藏版

佛國警察字典

凡例

一 此書ハ千八百五十五年ノ出版ニ係ルピオナン氏著ノ警察字典（ジクシオネール、ド、ポリス）ヲ本トシ千八百七十五年ノ出版ニ係ルブラール氏著ノ警察字典、トリピエー氏著ノ佛國（コード、ロワー、ユジユーエル）法典（ロワンヒー）ジエール氏及ソレール氏合著ノ現行法律書（コード、エー、ロワー、ユジユーエル）及ヒ警察法令類集等（コレクシオン、オヒシエル、デ、オルドンナンス、ド、ポリス）ヲ參酌シテ纂譯シタル者ナリ

一 書中各部ノ前項ニ掲クル各項ト處分手續ト調書ノ文例トハ專ラピオナン氏著ノ警察字典ニ據リ其法律、敕書等ノ正條ハトリピエー氏著ノ佛國法典トロジエール氏及ソレール氏合著ノ現行法律書ニ依ル又其警察規則ノ如キハ概子警察法令類集中ヨリ摘

載ス而シテ破毀法院等ノ斷案ニ至リテハ總テ之ヲ
エール氏著ノ警察字典ニ依レル者ナリ

一　書中左傍ニ一線標ナ畫スルハ人名ニシテ二線標ナ畫スルハ地名ナリ尤モ其既ニ世人ノ周知ニ係ルモノハ政テ之ヲ標示セス又前後ニ「」双角ヲ加ヘタルハ物名等強テ譯字ヲ下ス能ハサル者ナリ

一　書中破毀法院ノ斷案ノ如キハ或ハ法律、敕書等ノ各正條ノ後ニ揭ケタルアリ或ハ然ラサルアリ定例アルニ非ス專ラ便宜ニ依ルノミ

一　此書ハ前記ノ如ク諸書中ヨリ拾集シタルヲ以テ事、錯雜ヲ免レスト雖モ觀者已ニ其體裁ニ熟セハ又迷誤ヲ恕セヨ

明治十八年

譯者誌

一　余淺學ニシテ叨リニ譯述ニ任ス固ヨリ纇密意ヲ用フト雖モ或ハ又誤謬ナキヲ免カレサラン觀者請フ之ヲ

佛國警察字典假目次

明治十八年十二月廿四日內務省贈付

東京圖書館藏

○瘋癲人（前號ノ續キ） 一九一丁
○路線 二五八丁
○家畜獸 二七五丁
○公路ノ侵占 三二五丁
○制禁兵器及ヒ軍資 三二六丁
○逮捕 三七五丁
○警察決定書 同上
○謀殺及ヒ故殺 四〇九丁
○制禁ノ結社及ヒ集會 四二〇丁

[illegible] 四二〇丁
[illegible] 四四五丁
[illegible] 同丁
[illegible] 同丁
[illegible] 四七〇丁
[illegible] 同丁
[illegible] 四七九丁
[illegible] 同丁
[illegible] 同丁

此假目次ハ本書悉ク印行ノ上更ニ節用字引ノ体裁ニ
倣ヒ至テ見出シ易ク改ムヘシ

此假目次ハ本書悉ク印行ノ上更ニ節用字引ノ体裁ニ倣ヒ至テ見出シ易ク改ムヘシ

明治十九年二月二日内務省贈付

佛國警察字典假目次

A ノ部

○制禁ノ結社及ヒ集會（前號ノ續キ） 四二〇丁
○危險及ヒ不便ノ細工場 四四五丁
○廉恥ノ亂害 同丁
○凶群 同丁
○旅店 四七〇丁
○墮胎 同丁

B ノ部

○浴場 四七九丁
○掃除 同丁
○詐僞ノ倒産 同丁

○流船　四八八丁
○崩壊セントスル建物　五五七丁
○病畜　五六五丁
○重婚　同　丁
○有害及ヒ腐敗ノ飲料　五六八丁
○賣肉店及ヒ賣肉商　五八〇丁
○麵包製造所及ヒ麵包商　六〇四丁
○古本商　六一七丁
○古物商　六二五丁
○嘈聲及ヒ噪鬧　同　丁

此假目次ハ本書悉ク印行ノ上更ニ節用字引ノ体裁ニ倣ヒ全ク見出シ易ク改ム可シ

No 5084

佛國警察字典假目次

B部
○嘈聲及ヒ噪鬧（前號ノ續キ）　六三七丁
○雇人口入所　六三八丁
○專賣特許免狀　六六一丁
C部
○居酒店　六六一丁
○貸書肆　仝　丁
○二輪車　六六九丁
○死屍　仝　丁
○珈琲店　仝　丁
○讒誣　仝　丁

佛國警察字典假目次

No 5084

○部

○嘈聲及ヒ噪鬧（前號ノ續キ）　六三七丁

○雇人仁人所　六三八丁

○專賣特許免狀　六六一丁

○部

○居酒店　六六一丁

○貸書業　仝　丁

○二輪車　六六九丁

○死屍　仝　丁

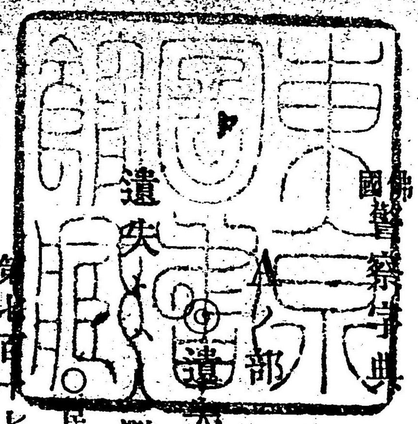
○珈琲店　仝　丁

○讒誣　仝　丁

○藏劍杖　六六九丁
○戒肉節　仝　丁
○保安劵　六七〇丁
○陽物截斷　六七六丁
○謳歌者　六八〇丁
○嘲罵　仝　丁
○戲術師　仝　丁
○狩獵　仝　丁
○鐵道　七四四丁

此假目次ハ本書悉ク印行ノ上更ニ節用字引ノ体裁ニ倣ヒ至テ見出シ易ク改ム可シ

東京圖書館藏



佛國警察字典

平井光隆譯

A ノ部

◎遺失（原語「アバンドン」）

遺失トハ人獸鳥魚物品ニ付テ之ヲ云フ

○民法（摘要）

第七百十七條　性質及ヒ種類ノ如何ヲ問ハス海中ニ投ケ入レシ品物及ヒ海水ノ打上ケシ品物又ハ海岸ニ生スル草類ヲ所得トスルノ權ハ亦別段ノ法律ヲ以テ之ヲ規定ス

所有者ノ出テサル遺失物モ亦之ニ等シ

第二千二百七十九條　動産ニ付テハ現ニ之ヲ有スルヲ以テ其所有權ノ證書ヲ有スルニ等シキ効アリト看做ス可シ

然レ𪜈動産ヲ遺失シ又ハ盜取セラレシ者ハ之ヲ有スル者ニ對シ其日ヨリ三年ノ時間其取戻ヲ求ムルコトヲ得但之ヲ有スル者ハ之ヲ己レニ渡シタル者ニ對シ其償ヲ得ヘキノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第二千二百八十條　盜賍物又ハ遺失物ヲ現ニ有スル者市場又ハ競賣ニテ之ヲ買ヒ又ハ其品物ト同種類ノ物ヲ賣ル商人ヨリ之ヲ買フタル時ハ其元來ノ所有者現在之ヲ有スル者ニ其買入レ代金ヲ償ハスシテ己レニ取戻スコトヲ得ス

○「エパブ」

法律上ニ於テハ左ニ敘列スル物品ヲ總稱シテ「エパブ」ト云フ

一　海中又ハ海岸ニ生スル草類

二　水底ヨリ引揚ケ又ハ波上若クハ水濱等ニ於テ拾得タル遺失物ノ如キ或人ニ屬スルト雖𪜈其事主知レサル物品此物品ヲ所得トスルノ權ハ特別法就中千六百八十一年八月公布ノ海軍法令ヲ以テ之ヲ規定ス

○沿海ノ「エパブ」

沿海ノ「エパブ」トハ海水ノ打上ケタル物ヲ云フ千六百八十一年八月公布ノ海軍法令ハ海中ニ生スル物品ト海底ヨリ引揚ケ又ハ海上ニテ見出シ或ハ海岸ニテ拾得タル何人ニモ屬セサル物品トヲ區別セリ

其第四篇第九章第二十九條ニ曰ク

何人ニモ屬セサル琥珀珊瑚油魚等凡ソ海中ニ生スル物ヲ海底ヨリ引揚ケ又ハ海上ニテ捕獲シタル者ニハ之ヲ全付スヘシ又海岸ニテ此等ノ物ヲ拾得タル者ニハ其三分ノ一ノミヲ交付ス

ヘシ

往昔ハ此等物品ノ三分ノ二ヲ以テ公領局ト海軍局トニ折半シタレヒ海軍局ノ廢止以來ハ該局ニ屬セシ部分ヲ政府ニ屬スルヿトナレリ

本條ニ云フ所ノ油魚トハ鯨、金鎗魚、海豚等凡ソ魚油ヲ搾取スルニ適當ナル脂肪多キ魚類ヲ指シタルモノナリ

又海岸ニテ拾得タリトヽ雖ヒ其一分ヲモ所得トスルヿ能ハサル魚類アリ鱒、鰊、鱒等即チ是ナリ此魚類ハ王ノ魚ト稱ヘ悉皆王室ニ屬ス故ニ其得者ハ唯相當ノ賞銀ヲ得ルニ止ル

然レヒ沖合ニ於テ此魚類ヲ捕獲シタル者ニハ之ヲ全付ス

又其第九篇第四章第二十七條ニ曰ク

沖合ニ於テ漂流物ヲ見出シ又ハ海底ヨリ之ヲ引揚ケタル者ニハ現品或ハ其代金ノ三分ノ一ヲ交付スヘシ而シテ其三分ノ二ハ預リ置キ前條ニ定メタル期限内ニ事主ノ出ツルニ當リ之ヲ返付スヘシ若シ此期限内ニ事主出サルニ於テハ右三分ノ二中ヨリ裁判費用ヲ扣除シテ之ヲ公領局ト海軍局トニ折半スヘシ

又其第二十八條ニ曰ク

海底ヨリ碇ヲ引揚ケ其旨ヲ屆出タル日ヨリ二ケ月ノ期限内ニ事主ノ出サル時ハ其引揚人ニ之ヲ全付スヘシ

〇河川ノ「エパブ」

水流及ヒ森林ニ關スル千八百八十一年八月公布ノ法令ハ舟筏ノ通ス可キ河中ニ於テ見出シタル物品又ハ水流ノ河岸ニ打上ケタル物品ヲ總稱シテ水流ノ「エパブ」ト名ク

該法令第三十一章第十六條ニ曰ク

水流ノ「エパブ」ヲ拾得タル者アル時ハ調書ヲ造リテ民事裁判所ニ送致スヘシ該裁判所ハ聽訟ノ席ニ於テ之ヲ朗讀シ一ケ月ノ期限内ニ事主出サルトキハ之ヲ公賣シテ其賣上代金ヲ徵稅官ニ預ケ置キ公賣後一ケ月以内ニ事主出タルトキハ事實調査ノ上ニテ之ヲ返付スヘキヲ命シ若シ其事主出サルニ於テハ之ヲ公領局ニ収ムヘキヲ命スル者トス

警察廳ノ管内ニ於テハ河上ニ浮フル筏ヨリ放流スル薪材ノ引揚ケタル吏員ヲシテ特ニ之ヲ取扱ハシムル故ニ此吏員ノ外ハ何人タリトモ之ヲ引揚クルコトヲ禁シ又何人タリトモ引揚ケタル木材ヲ隱匿シ又ハ買取ルコトヲ禁ス之ニ違フ者アレハ竊盜ト均シク看做シテ之ヲ處罰ス（千七百三十九年七月十三日及ヒ千七百五十八年四月十八日達ノ警察法令）

舟筏ノ難破ニ係リタル場合ニ在テハ何人タリトモ其木材、商品、艀船ノ破片等ヲ引揚クルヲ得ヘシ然レトモ之ヲ引揚ケタル者ハ二十四時間内ニ巴里府ニ於テハ警察使若シクハ航舟兼港湊監吏ニ又田邑ニ於テハ邑長若クハ備警隊ニ其旨届出サル可ラス但警察使及ヒ邑長等ハ又其旨ヲ警察令ニ開申スルモノトス

凡ソ引揚ケタル物品ハ假リニ預リ置キ事主出ツレハ其權利ヲ查覈シ且引揚費及ヒ自餘ノ費用ヲ拂ハシメタル上ニテ之ヲ返付ス」

河川ヨリ引揚ケタル物品ノ全部或ハ一部ヲ己レノ所得ト爲シ又ハ隱匿シ或ハ賣拂フタル者ハ賍品ヲ隱匿シタル者ト均シク看做シ法律ニ照シテ之ヲ處刑ス（千八百四十一年二月十一日及千七百八十四年三月二十五日達ノ警察法令）

舟筏ヲ通スルヲ得サル河川ノ「エパブ」ニ付テハ別ニ規則ノ設ケナシ故ニ此「エパブ」ノ取扱ハ陸地ノ「エパブ」ノ規則ニ依ル

○陸地ノ「エパブ」

民法ハ唯リ海中ニ限ラス其他到ル所ニ於テ他人ノ拾得タル遺失
物ヲ悉ク「エバブ」ノ部類ニ入レ而シテ此遺失物ヲ所得トスルノ權
モ亦特別ノ法律ヲ以テ規定スヘシト定メタリ然レニ今日ニ至ル
マテ尚ホ未タ此事項ヲ規定シタル特別法律ノ設ケナク廣場公路
等ノ遺失物ニ就テハ曾テ其所有權ヲ得者ニ屬シタルノ明文アル
ヲ見ス

然リト雖ニ茲ニ千八百二十五年八月三日附ノ大藏卿ノ廻文ナル
者アリ其要領ハ左ノ如シ

凡ソ遺失物ヲ拾得タル者ハ之ヲ行政官又ハ司法官ニ差出スヘ
シ若シ三年ノ期限ヲ經ルモ事主出サル時ハ其保安料ヲ納付セ
シメタル上ニテ之ヲ得者ニ下付スヘシ
三年ノ期限ハ物品ヲ得タル日ヨリ起算セス之ヲ失フタル日ヨリ

起算スルモノトス

遺失物ノ所持者ハ事主ノ請求ヲ受クルニ於テハ何レノ場合ト雖
ニ之ヲ返還セサルコトヲ得ス

若シ其所持者市場又ハ雜貨ニテ之ヲ買入レ又ハ此物品ト同種ノ
物ヲ賣ル商人ヨリ之ヲ買入レタルトキハ其良心潔白ナルコト素ヨリ
明ナリ故ニ所持者ハ事主ヨリ物品ノ買入代金ノ償ヲ得ルニ非サ
レハ之ヲ返付スルノ義務ナシ此場合ニ於テハ事主ハ己レノ所有
物ヲ取戻スニ付テ費シタル金額ノ償ヲ要ムルカ爲メ盜犯又ハ得
者ニ對シテ訴ヲ起スコトヲ得

然レニ一個人ヨリ遺失物ヲ買入レタルトキハ其所持者ニ於テ全ク
過失ナシト云フ可カラス何トナレハ所持者ハ最初物品ヲ買入ル
ノ時ニ於テ能ク其賣主ノ品行ニ注意シ聊タリニ疑ハシキ所アレ

ハ賣シテ其賣入レヲ止ムヘケレハナリ故ニ事主ハ其買入代金ヲ償ハスシテ所持者ヨリ之ヲ取戻スノ權アリ此場合ニ於テハ所持者ハ粗忽ニ信用シタル賣主ニ對シテ要償ノ訴ヲ起スコトヲ得

○遺失物取扱ニ關スル警察廳ノ決定書（共和八年霜月十九日達）

凡ソ遺失物ヲ得タル者ハ事主出ツレハ直チニ之ヲ還付セサル可ラス若シ其事主出サルキハ二十四時間内ニ届書ヲ添ヘ最寄ノ保安官ニ之ヲ差出ス可シ保安官ハ得者ヨリ受取リタル届書及ヒ遺失物ヲ警察廳ニ送移スヘシ但警察廳ニ於テハ特ニ係リヲ置キテ遺失物ヲ管理セシム

公路若クハ公場ニ於テ拾得タル物品又ハ所持スル正當ノ理由ヲ辯解スルコト能ハサル商人及ヒ其他ノ者ノ販賣ニ供シタル物品ヲ受取リタル保安官ハ其調書ヲ添ヘテ之ヲ警察廳ニ送致ス可シ警察廳ニ於テハ之ヲ遺失物係ニ送リテ檢査及ヒ登錄セシム

又遺失物係ハ各警察署ニ於テ毎日受取ル所ノ遺失届及ヒ盜難届ノ報告ヲ受ク

遺失届及ヒ盜脏品ハ伊呂波分ケ又ハ自餘ノ記號ヲ以テ簿册ニ登錄スル例セハ時計ハ「ト」ノ部ニ記シ寶石ハ「ホ」ノ部ニ掲ク又其部ニハ遺失物又ハ盜脏品ニ係ル調書及ヒ報告書ノ番號ヲ記ス

又警察廳ハ事主ノ知レサル物品ノ取扱ニ付テ左ノ制規ヲ採用セリ

事主ノ知レサル遺失物ヲ其得者ニ下渡スニ三年ノ期限ノ盡クルヲ待ツ時ハ其期限ノ久シキ或ハ得者ノ所在ヲ失フノ虞ナキ能ハス故ニ一年ヲ經ルモ事主ノ知レサル遺失物ハ假リニ得者ニ下渡【シテ其後二年間大切ニ之ヲ保存スルノ義務ヲ命ス

然レ𪜈得者ノ品行及ヒ財産上ニ於テ保證シ難キ所アレハ假令ヒ一年ノ期ニ至ルモ其物品ヲ下渡サス三年ノ期限全ク盡クルヲ待テ初メテ之ヲ交付ス

遺失物下渡願ノ手續ニ在テハ得者ニハ其身分ヲ辯明セシメ事主ニハ其所有權ヲ證明セシムルヲ以テ足レリトス

○遺失物ノ取扱ニ付キ警察令ヨリ劇場差配人ヘ諭達（千八百四十一年三月二十九日）

開ク府内ノ各劇場ニ於テハ其係員ノ場内ニテ得タル遺失物ヲ其差配人ニ差出サシメ差配人ハ事主ノ出ツルヲ待チテ之ヲ還付スルカ爲メニ一年間之ヲ預リ置キ而シテ若シ此期限内ニ事主ノ出サルトキハ之ヲ其得者ニ交付スルノ慣例ナリト抑々此慣例タル所有權ニ抵觸スル者ニシテ不都合ノ廉極メテ多シトス何トナレハ

事主ヨリ其遺失物ノ取戻ヲ求ムルヲ得ルノ期限ヲ三年ト定メタル民法第二千二百七十九條ニ背戻スルノミナラス概ネ物品ヲ遺失セシ者ハ劇場事務所ニ於テ之ヲ預リ置クコトヲ知ラサルヲ以テ該事務所ニ到リ之ヲ求メスシテ遺失物預所アル本廳ニ來リテ之ヲ求メ或ハ盜難ニ罹レリト誤信シテ屢々官衙ヲ煩ハスコトアリ故ニ向後劇場ニ於テ遺失物ヲ得タル者ハ必ス之ヲ臨場警察使ニ差出ス可キ旨配下諸員ヘ洩レナク告知スヘシ

○停車場ノ遺失物

鐵道會社ハ遺失物ヲ所得トスルノ權利ヲ有セス若シ其得者、該會社及ヒ事主ニ全ク關係ヲ有セサル者ニシテ事主ヲ尋チタルモ遂ニ尋チ當ラサリシノ證アル時ハ之ヲ所得トスルノ權アリト雖モ然レ𪜈其得者、該會社ノ役員若クハ監吏ニシテ事主知レサルニ於

テハ制規ノ手續ヲ經タル證ヲ之ヲ政府ニ屬スヘシ（千八百四十五年公領局ノ指令）

○市場ノ遺失物

巴里府ノ市場ニ於テ遺失物ヲ得タル者ハ直ヲニ之ヲ警吏詰所ニ差出スヘシ其後二十四時間ヲ經ルモ事主出サルニ於テハ警吏ヨリ之ヲ其區ノ警察署ニ送致スヘシ（千八百六十五年十二月三十日達ノ警察法令第六十四條）

○地中ヨリ發見シタル物品

土地ヲ穿掘シテ貨幣、兵器、美術品、古器物等ヲ發見シタル者ハ直ヲニ之ヲ其區ノ警察使ニ差出スヘシ但法律ニ於テ其發見者ニ屬シタル權利ト相觸ルヽヿ勿ルヘシ

人骨ヲ掘出シタル者ハ丁寧ニ之ヲ拾集シ其區ノ警察使ノ指揮ヲ受ケヲ適宜ノ場所ニ運搬スヘシ（千八百六十二年七月二十五日達ノ警察法令第十七條）

○旅客涼船中ノ遺失物

旅客涼船中ニ遺留シタル物品ハ直ヲニ之ヲ其事主ニ返付スヘシ若シ直ヲニ返付スルヿ能ハサル時ハ涼船會社ニ送致シ三日ヲ經レヒ事主出サルニ於テハ之ヲ警察廳ニ差出スヘシ（千八百六十九年三月十五日達ノ警察法令）

○田野ニ放逸シタル家畜

種類ノ如何ヲ問ハス家畜ヲ放逸シテ他人ニ屬スル土地ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其家畜ヲ使用スル者之ヲ償フヿヲ可シ若シ其使用者ニ於テ償フヿ能ハサルトキハ家畜ノ所有權ヲ有スル者之ヲ償フヿヲ可シ」

損害ヲ受ケタル者ハ其家畜ヲ捕フルノ權利アリト雖ヒ二十四時間ニ邑官ヨリ指定セル留置場ニ之ヲ引致セサル可ラス

放逸家畜ヲ留置場ニ入レタル日ヨリ八日間内ニ其引取人アラサ

ル時又ハ償金ヲ拂ハサル時ハ其家畜ヲ公賣シテ損害ノ償金ニ充ツヘシ

又種類ノ如何ヲ問ハス放逸シタル家畜ノ爲メニ損害ヲ受ケタル地主又ハ小作人ハ其現時及ヒ現場ニ於テ之ヲ撲殺スルコトヲ得ヘシ

前條ニ揭ケタル犯罪ハ共和六年暖月二十三日公布ノ法律第二條ニ依リ三日以上ノ工銀ニ等シキ罰金ニ處シ又ハ三日以上ノ禁錮ニ處スヘシ（以上千九百九十一年九月二十日決定十月六日公布ノ法律）

○斷案

（獸類種族）シタル他人ノ土地ニ獸類ヲ放逸スル所爲ハ千七百九十一年九月二十八日決定十月六日公布ノ法律第二章第十二條ニ依リ處斷スル者トス（千八百二十九年九月二十八日破毀法院）獸類ノ放逸ハ假令ヒ損害ヲ起サヽリシ時ト雖モ田野罪ヲ組織スル者トス（千八百十一年二月十五日同院）檢察官ハ放逸シタル獸類其價ヲ見積ル可キ程ノ損害ヲ爲サス且其地主ヨリ出訴セサル時ト雖ヒ公訴スルコトヲ得ヘシ（千八百三十七年十月十七日同院）

治安裁判官ハ放逸シタル獸類ノ他人ニ屬スル土地ニ損害ヲ加ヘタルヤ否ヤヲ檢査スルニ及ハス（千八百六十一年八月十日同院）凡ソ田野罪ハ損害賠償ノ外ニ罰金又ハ禁錮中ノ一刑ニ處ス可キモノナリ故ニ警察裁判所（違警罪裁判所ト輕罪裁判所トノ總稱）ハ獸類ヲ放逸セシメテ他人ニ屬スル土地ニ損害ヲ加ヘタル者ニ損害ノ賠償ノミヲ宣告スルニ限ルコトヲ得ス（共和十一年霧月十日同院）罰金ハ獸畜ノ看守ニ任シタル牧人ニ科スヘキモノニ在ラス（共和十四年霜月十四日同院）

他人ニ屬スル土地ニ家畜ヲ放チテ秣草ヲ食フニ委シタル所爲ハ

三日以上ノ工銀ニ等シキ罰金ニ處スヘキ犯罪タリ故ニ此田野罪ノ被告人ニ一法（フラン）ノミノ罰金ヲ言渡シタル裁判宣告ハ其効アラサル者トス（千八百六十一年六月二十八日同院）

他人ニ屬スル土地ニ獸畜ヲ放チテ縱マヽニ秣草ヲ食フニ委スルハ千七百九十一年九月二十八日決定十月六日公布ノ法律第三條及ヒ第十二條ニ揭ケタル所爲ニシテ刑法第四百七十一條第十四項ニ揭クル所爲ニ在ラス故ニ此所爲ハ其私有地ヲ圍繞セル垣墻ノ完備セシ時ト否ラサリシ時トヲ論セス共和四年暖月二十三日公布ノ法律ニ依テ處斷スヘキ動產ヲ損害スルノ犯罪トス（千八百十五年二月十九日同院）

他人ニ屬スル土地ニ獸畜ヲ放逸シタル犯罪ノ公訴ハ假令ヒ民事裁判所ニ於テ既ニ其損害要償ノ訴ヲ受理セシト雖ヒ證告書ノ日子ト召喚狀ノ日子トノ間ニ一箇月ヲ經過シタル時ハ期滿免除トス可シ（千八百七十年七月二十八日同院）

他人ニ屬スル牧場ニ獸畜ヲ放逸スルノ田野罪ヲ犯セシ者ハ假令ヒ既ニ其損害ヲ償了シタリト辯解スルヒ放免セラルヽヿヲ得ス（千八百六十七年六月九日同院）

犯罪ヲ組成スルニハ家畜ヲ放委シタルノ所爲アルヿヲ必要トス故ニ夏期蚋ニ刺サレ或ハ物ニ驚キテ他人ノ私有地ニ馳セ入リ又ハ獸群ニ放レ道ヲ失フテ近邊ノ私有地ニ迷ヒ入ル等凡ソ牧人ノ解怠ニ出サル家畜ノ放逸ハ之ヲ驚逸ト云フ固ヨリ此等ノ場合ニ在テモ家畜ノ所有主又ハ看守人ハ其損害ヲ償ハサル可ラスト雖ヒ之カ爲メニ刑ノ宣告ヲ受クルヿナシ（民法第三百八十三條參考）

（鳥類）他人ニ屬スル土地ニ家禽ヲ放ツハ千七百九十一年九月二十

八日決定十月六日公布ノ法律第十二條ニ循ヒ罰金ニ處スヘキノ犯罪トス（千八百三十六年十月八日同院）麥畑ニ吐綬鷄ノ群チ放ツモ亦仝シ（千八百四十三年九月八日同院）

他人ニ屬スル土地ニ家禽チ放ツノ所爲ハ其現場ニ於テ之チ撲殺スルヲチ得ル地主ノ權利ニ拘ラス共和四年暖月二十三日ノ法律ニ循ヒ三日ノ工銀ニ等シキ罰金又ハ三日ノ禁錮ニ處スヘキノ犯罪ナリトス（千八百六十六年八月十六日同院）

數人ニ屬スル數個ノ土地ニ同時ニ損害チ加ヘタル家禽ニ關シ數通ノ證告書アル時ハ警察裁判所ハ各通ノ證告書ニ付テ暖月二十三日ノ法律第二條ニ定メタル刑ノ宣告チ爲サヽルヲ可ラス（千八百五十六年五月二十六日同院）

千七百九十一年十月六日ノ法律第十二條ハ其性質ニヨリ看守スルヲ能ハサル家鳩ニ適用スルチ得ス夫レ家禽ト云フ名稱ハ廣庭ニ飼養スルチ得サル鳥類ニ及ホスヲチ得サルモノナリ（千八百二十一年十月六日同院）

凡ソ地主タル者ハ己レニ屬スル土地ノ收納物ニ損害チ加フル家禽チ現場ニ於テ撲殺スルハ勿論之チ毒殺スルモ妨ケナシ（千八百六十八年三月七日同院）

私有地内ニ於テ他人ニ屬スル家禽チ撲殺スル地主及ヒ小作人ノ特權ハ其損害チ爲スノ現時及ヒ現場ニ非サレハ之チ行フヲチ得ス故ニ例セハ魚類チ畜養スル池上ニ浮遊セル家鴨チ撲殺シタルカ爲メニ訴ヘラレシ者ハ池上ニ家鴨ノ浮フハ既ニ其所有物ニ對シ差係リタル危險チ現出シタルナリト抗辯スルモ免罪ノ限リニ在ラス（千八百六十八年十二月二十六日仝院）

○公路上ニ放逸スル馬匹、駄獣等

刑法第四百七十五條（摘要）　左ニ叙列スル罪ヲ犯シタル者ハ六法（フラン）以上十法以下ノ罰金ニ處スヘシ

第三項　馬又ハ車ヲ輓カシメ或ハ物ヲ負載セシムル獣類及ヒ車ニ添フテ常ニ之ヲ引導シ得ヘキ場所ニアルヘキ規則ニ背キタル者

仝第四百七十五條　第四百七十五條ニ記シタル各人再犯ノ罪アル時ハ五日以下ノ禁錮ニ處スヘシ

○斷按

刑法第四百七十五條ノ第三項ハ警察規則アラサル時ト雖モ馬ヲ繋附シタル車ヲ街衢ニ放置シ又ハ國道、州道、鄉道ヨリモ他ノ公路ニ之ヲ放置シタル者ニ適用スヘシ（千八百五十五年六月二十一日破毀法院）

常ニ車馬ヲ引導シ得可キ場所ニ在ル可キヲ輓夫、馭者等ニ命シタル邑官ノ決定書ニ違背スル罪ハ刑法第四百七十五條ノ第三項ニ記シタル刑ニ處スヘキ者ニシテ仝第四百七十一條ノ第四項又ハ第十五項ニ記シタル刑ニ處スヘキ者ニ非ス（千八百四十八年十一月四日同院）

犯則ノ輓夫ハ數分時間ナラテハ其車ヲ放置セス又ハ家屋ニ出入スル時間ナラテハ其車ヲ駐留セス又ハ居酒舖ノ入口ニ在リテ其馬ヲ看守シタリト抗辯スルモ免罪ノ限リニ在ラス（千八百六十年四月二十七日同院）

馬ヲ放ツノ所爲ハ公路ニ車ヲ駐ムルノ所爲ト區別シテ處斷スルヲ得ル者ナリ故ニ馬車ノ馬丁ハ車ヲ駐メタルノ所爲ニ付キ已ムヲ得サルノ事故アリシコトヲ辯明スルニ於テハ放免セラルヽヲ得ヘシト雖モ馬ヲ放チタルノ所爲ニ付テハ已ムヲ得サルノ事

故アリシヿヲ辯解スルヒ放免セラルヽヿヲ得ス（千八百六十年四月二十七日仝院）

凡ソ違警罪ノ訴ハ馬車ノ所有主ニ對シテ起スヲ要ス（千八百四十六年十一月二十四日同院）然レヒ所有主ヨリ其馬丁ノ姓名ヲ屆出テ處分ヲ請求スル時ハ此限ニ在ラス（千八百四十八年十一月二十四日同院）

警察規則ハ荷物ノ積卸ヲ爲スニ必要ナル時間、公路上ニ馬車ヲ駐留スルノ允許ヲ馭者、馬丁ニ與フルヿヲ得ヘシト雖ヒ其之ヲ引導シ得ヘキ場所ニ在ルヘキノ義務ヲ守ラシメサルヿヲ得ス（千八百四十六年九月十九日仝院）

○千八百五十二年八月十日ノ敕書摘要

第十四條　凡ソ馭者及ヒ馬丁ハ馬又ハ車ヲ輓カシメ或ハ物ヲ負載セシムル獸類ニ添フテ常ニ之ヲ引導シ得ヘキ場所ニ在ル可シ

○千八百五十一年五月三十日ノ法律摘要

第五條　本法第二條第二項ノ第四節及ヒ第五節ヲ執行スル爲メニ設ケタル規則ニ背キシ者ハ六法以上十法以下ノ罰金ニ處シ且一日以上三日以下ノ禁錮ニ處ス可シ

再犯ノ場合ニ於テハ十五法以下ノ罰金ニ處シ且五日以下ノ禁錮ニ處スルヿヲ得可シ

（參考）

第四節　一列車中ニ加フルヲ得可キ車數、各列車ノ間ニ置ク可キ距離及ヒ各列車ヲ引導スル輓夫ノ定員

第五節　路上ニ駐留スル等ノ事ニ關シ輓夫ノ守ル可キ警察規則及ヒ他車ヲ避ケ又ハ越ユル事ニ關シ輓夫ノ守ル可キ規則

○斷按

千八百五十二年八月十日公布ノ敕書ハ國道、州道及ヒ鄉道ノ取締ヲ目的トシ千八百五十一年五月三十日公布ノ法律ハ道路ニ往來スル諸車ノ取締ヲ目的トス故ニ此法律ハ駄獸又ハ車ニ繫附セサル馬匹ヲ大路ニ放チタルノ所爲ニ適用スルヲ得ス但此所爲ハ刑法第四百七十五條第三項ニ揭クル所ノ違警罪ヲ組織ス（千八百五十五年六月十五日破毀法院）

○盜賊ノ用トナル可キ器具、物件ヲ公路又ハ田野ニ遺留スル事

刑法第四百七十一條　左ニ叙列スル罪ヲ犯シタル者ハ一法以上五法以下ノ罰金ニ處スヘシ

第七項　道路、小徑、街衢、田野ニ鋤、鍬、木梃、鐵竿又ハ其他盜賊及ヒ兇行ヲ爲ス者ノ用トナル可キ兵器又ハ器具類ヲ遺留セシ者

仝第四百七十二條　前條ニ云々第七項ニ記シタル各犯人再犯ノ罪ノ兵器、々具類ハ之ヲ沒收ス可シ

仝第四百七十四條　第四百七十一條ニ記シタル鋤、鍬及ヒ其他アル時ハ三日以下ノ禁錮ニ處スヘシ

○斷按

刑法第四百七十一條ノ第七項ハ街衢又ハ公路ニ連續シテ園墻ノ設ケナキ庭內ニ梯子ヲ遺留シタルノ所爲ニ適用ス（千八百五十一年十一月二十四日破毀法院）違戻者ハ假令ヒ梯子ヲ石ニ嵌メ込ミテ一時欄柵ニ代用シタルナリト抗辯シ又ハ梯子ヲ遺留セシハ午後第十時ニシテ此時ニハ諸人ノ通行未タ止マサリシト抗辯シ又ハ梯子ヲ以テ脚代ト

ナシ置キタルニ何人カ之レヲ解キ放シタルナリト抗辯スルモ免罪ノ限リニ在ラス（千八百五十七年九月廿四日全院）

○處分手續

第一項　遺失物ヲ受取リ又ハ遺失物ヲ拾得テ所持スル者アリトノ報知ヲ受ケタル司法警察官ハ即時ニ得者ヨリ届書ヲ差出サシメ且調書ヲ作リテ其遺失物ヲ發見セシ日時ト場所トヲ證スルニ適當ナル諸證憑并ニ其遺失物ノ名稱種類等ヲ明細ニ登記シ届出人及ヒ證人ナシテ之ニ姓名ヲ手署セシムヘシ

第二項　若シ其遺失物ノ寶玉、金銀、器什、銀行手形又ハ姓名ヲ手署シタル手形ノ如キ物ナル時ハ之ヲ調書ニ副ヘテ民事裁判所ノ書記局ニ差出スヘシ該裁判所ノ書記ハ警察官ノ所持スル特別懷中手簿ニ請取ヲ記シテ之ニ姓名ヲ手署スル者トス

第三項　未タ遺失物ヲ書記局ニ差出サヽルノ前ニ事主ヨリ其返還ヲ要ムル時ハ請取書ヲ差出サシメタル上ニテ之ヲ還付スヘシ但其請取書ハ調書ニ添附スル者トス

第四項　若シ遺失物ノ車、馬、駄獸ナル時ハ速ニ調書ヲ作リ其返還ヲ要ムル者アラサレハ刑事裁判費定額表第三十九條及ヒ第四十條ニ定メタル時間之ヲ遺失物留置場ニ留置ス可シ

第五項　其幼兒又ハ痴人ニ係ル時モ亦調書ヲ作リテ幼兒ハ貧院ニ送致シ痴人ハ乞丐院ニ送致ス可シ

第六項　司法警察官ハ成ル可ク速ニ調書ヲ撿事局ニ送致スヘシ又第四項ニ掲クル場合ニ於テハ其副本ヲ行政官ニ送致ス可シ

○調書ノ文例

千八百何年、何月、何日、余官吏ノ姓名、官職、住所ヲ記ス　ノ面前ニ某氏届出人ノ姓名、年齢、職業、住所、産地ヲ記ス出頭シ何月、何日、何時、某物品發見セシ物品及ヒ其場所ヲ記スヲ拾得タル旨ヲ届出テ其物品ヲ余ニ交付セリ

本人其物品ヲ拾得タル時ノ證人トシテ某氏等證人ノ姓名、年齢、職業、住所ヲ記スヲ指示セリ

（若シ其遺失物ノ馬又ハ車等ナル時ハ左ノ如ク記ス可シ）

余其馬若クハ其車ヲ遺失物留置場ニ送致シタリ遺失物留置場ノ在ル場所ト其馬上或ハ車上ニ物品トヲ記ス可シ

（若シ其遺失物ノ馬又ハ車等ナル時ハ左ノ如ク記ス可シ）

余假リニ之ヲ某貧院ニ留置セシメタリ

（若シ其痴人ナル時ハ左ノ如ク記ス可シ）

余假リニ之ヲ乞丐院ニ引致セシメタリ

是ニ由テ余本書ヲ作リ之ヲ讀ミ聞カセタル後、届出人及ヒ證人ヲシテ之ニ其姓名ヲ手署セシメタリ

◎失踪（原語「アブサンス」）又ハ不在（原語「ジスパリシオン」）

失踪又ハ不在ニハ數種ノ原因アリ

第一、單身ニテ其家ニ住スル者、二十四時間以上其容ヲ現ハサヽル時ハ頓死シ又ハ自殺シ或ハ殺害セラレタルコトアリ

第二　非理ノ所業ヲナシタルカ爲メニ逃走シタルヿアリ

第一及ヒ第二ノ場合ニ於テハ隣人ヨリ官吏ニ報知ス可シ

○民法摘要

○死亡證書

第七十七條　埋葬ハ身上證書係リ官吏ヨリ無税ノ免狀ヲ申受ケタル上ニ非サレハ之ヲ爲ス可ラス但身上證書係リ官吏ハ死去ヲ撿スル爲メ死者ノ所ニ到ル可ク且死去ノ後、二十四時間ヲ經ルニ非サレハ其免狀ヲ渡ス可ラス尤モ取締規則ニ於テ別段定メタル場合ハ此例ニ在ラス

第七十八條　死亡證書ハ證人二名ノ申述ニ從ヒ身上證書係リ官吏之ヲ記ス可シ○其二名ノ證人ハ最近ノ血屬又ハ近隣ノ者タルヲ得ルニ於テハ之ヲ用ヒ若シ又住所外ニテ死去シタル時ハ其一人ハ死去シタル家ノ者又一人ハ死者ノ血屬或ハ其他ノ人ヲ用フ可シ

第七十九條　死亡證書ニハ死者ノ姓名、年齡、職業、住所並ニ死者、現ニ婚姻セシ者又ハ既ニ鰥寡トナリシ者タル時ハ其配偶者ノ姓名ト申述ヲ爲ス者ノ姓名、年齡、職業、住所及ヒ其申述ヲ爲ス者、死者ノ血屬ナルトキハ其倫序トヲ記ス可ク且此證書ニハ死者ノ父母ノ姓名、職業、住所ト其死者ノ產地トヲ知リ得ヘキニ於テハ亦之ヲ記ス可シ

第八十條　兵病院及ヒ尋常病院又ハ其他ノ公舍等ニ於テ死去シタル者アルトキハ其家屋ノ主者、支配人若シハ所有者ヨリ二十四

時間内ニ其旨ヲ身上證書係リ官吏ニ報告シ其官吏ハ死去ヲ檢スル爲メ其家屋ニ到リ己レノ聽キタル申述ト己レノ檢査シタル條件トニ從ヒ前條ニ記シタル如ク死亡證書ヲ記ス可シ

病院及ヒ公舍ニ於テハ其申述及ヒ檢査ノ諸件ヲ登記ス可キ簿冊ヲ設ケ置ク可シ

其身上證書係リ官吏ハ死者ノ最終ノ住所ノ身上證書係リ官吏ニ其死者ノ死亡證書ヲ送達シ其官吏ハ此證書ヲ身上證書簿ニ登記ス可シ

第八十一條　非命死ノ徵アル時又ハ非命死タルコトヲ思察ス可キ摸樣アルトキハ保安官、內科又ハ外科醫師ノ助ケヲ受ケテ死体ノ形狀及ヒ之ニ關シタル摸樣ト死者ノ姓名、年齡、職業、產地、住所等ニ付キ蒐集シ得タル諸件トヲ調書ニ記シタル後ニ非サレハ埋

葬ヲ爲ス可ラス

第八十二條　保安官ハ死者アル地ノ身上證書係リ官吏ニ直チニ其調書ニ記シタル諸件ヲ報告シ身上證書係リ官吏ハ此調書ニ從テ死亡證書ヲ記ス可シ

身上證書係リ官吏ハ死者ノ住所ヲ知リタル時ハ其住所ノ身上證書係リ官吏ニ死亡證書ノ副本一通ヲ送達スヘシ但其副本ハ身上證書簿ニ登記スル者トス

第八十三條　罪人ヲ死刑ニ處セシ時ハ其時ヨリ二十四時間內ニ刑事裁判所ノ書記ヨリ死刑ヲ行ヒシ地ノ身上證書係リ官吏ニ

第七十九條ニ記シタル諸件ヲ取調ヘタル書面ヲ送達シ身上證書係リ官吏ハ其書面ニ從テ死亡證書ヲ記ス可シ

第八十四條　獄舍、徒刑場等ニ於テ死去セシ者アルトキハ其監守人

ヨリ直チニ身上證書係リ官吏ニ報告スヘシ但身上證書係リ官吏ハ第八十條ニ記セシ如ク其死去セル所ニ到リテ死亡證書ヲ記スヘシ

第八十五條　非命死ヲ爲シ又ハ獄舍、徒刑場等ニ於テ死去シ又ハ死刑ニ處セラレシ者アル時ハ此等ノ事ヲ簿冊ニ記セス唯タ第七十九條ニ記シタル法式ヲ以テ死亡證書ヲ記スヘシ

第八十六條　航海中ニ死去セシ者アル時ハ其船ノ士官中又士官アラサル時ハ乘組人中ニテ證人二名ヲ撰ヒ其面前ニ於テ二十四時間內ニ死亡證書ヲ記スヘシ但此證書ハ皇帝ニ屬スル船ニ於テハ海軍ノ庶務士官之ヲ記シ商買又ハ「アルマヲユール」ニ屬スル船ニ於テハ其船長又ハ指揮者之ヲ記スヘシ

死亡證書ハ乘組人姓名簿ノ末尾ニ登記スヘシ

第八十七條　海軍ノ庶務士官又ハ船長或ハ指揮者ハ死亡證書ヲ記シタル後、歇船、泊船ノ爲メ又ハ船具ヲ取收ムルヨリモ他ノ原由ニ因リ始メテ卸碇シタル港ニ於テ第六十條ニ記スル所ニ循ヒ其證書ノ副本二通ヲ納ムヘシ

船具ヲ取收ムヘキ港ニ着セシ時ハ其乘組人ノ姓名簿ヲ海兵召募局ニ納メ該局ノ官吏ハ死亡證書ノ副本一通ニ姓名ヲ手署シテ之ヲ死者ノ住所ノ身上證書係リ官吏ニ送達スヘシ但身上證書係リ官吏ハ其副本ヲ直ヲニ身上證書簿ニ登記スヘシ

○失踪ヲ思度スル事

第百十二條　失踪ノ思度ヲ受ケタル者名代人ヲ任セサル時其遺留シタル財產ノ全部又ハ一部ヲ支配スヘキ用意ヲ爲スノ必要ナルニ於テハ其思度ヲ受ケシ者ニ關係ヲ有スル者ノ願ニヨリ

始審裁判所ニ於テ其用意ヲ爲ス可キコトヲ言渡ス可シ

第百十三條　始審裁判所ニ於テハ失踪ノ思度ヲ受ケシ者ニ關係ヲ有スル者ノ中最初ニ出訴シタル者ノ願ニ應シ其思度ヲ受ケシ者ノ關係アル財產ノ目錄、諸件ノ計算、遺物ノ分派、會計ノ完濟等ノ諸件ニ付キ其思度ヲ受ケタル者ニ代ル可キ證書人ヲ任ス可シ

第百十四條　檢察官ハ失踪ノ思度ヲ受ケシ者ノ權利ヲ別段ニ監守ス可シ且其思度ヲ受ケシ者ニ關シタル訴訟アル時ハ裁判官必ス檢察官ノ申立ヲ聽ク可シ

○失踪ヲ公告スル事

第百十五條　人其住所又ハ寄留スル場所ニ歸來スルコトナク且四年來其消息ヲ得サル時ハ其失踪者ニ關係ヲ有スル者ヨリ始審裁判所ニ失踪ノ公告ヲ爲ス可キコトヲ出訴スルヲ得可シ

第百十六條　裁判所ニ於テハ其受取リタル證書及ヒ書類ヲ取調ヘタル上失踪ヲ證ス可キ爲メ失踪者ノ住所ノ郡ニ於テ檢事立會ノ上其吟味ヲ爲ス可キコトヲ言渡ス可シ若シ其住所外ニ寄留スル場所アル時ハ其場所ノ郡ニ於テモ亦檢事立會ノ上其吟味ヲ爲ス可キコトヲ言渡ス可シ

第百十七條　又裁判所ニテ失踪公告ノ出訴アルニ付キ其公告ノ言渡ヲ爲スニハ其失踪ノ緣由及ヒ失踪ノ思度ヲ受ケシ者ノ消息ヲ得ルノ妨ケトナル可キ原由ニモ亦注意ス可シ

第百十八條　檢事ハ吟味ノ言渡書及ヒ公告ノ言渡書ヲ受取リタル毎トニ直ニ之ヲ司法卿ニ送呈シ司法卿ハ此言渡書ヲ公告セシム可シ

第百十九條　失踪公告ノ言渡ハ失踪吟味ノ言渡ヨリ一年ノ後ニ非サレハ之ヲ爲ス可ラス

○失踪者其失踪セシ時ニ所有シタル財産ニ係ル失踪ノ效

第百二十條　失踪者、其財産ヲ支配セシム可キ名代人ヲ任セサルニ於テハ其失踪ノ時又ハ其最終ノ消息ヲ得タル時ノ最親ノ遺物相續人當時失踪者ノ所有セシ財産ヲ失踪公告ノ言渡書ニ依リ假リニ己レノ所有ト爲スノ許ヲ受クルヿヲ得ヘシ但其相續人ハ其財産ヲ正實ニ支配ス可キ保證ヲ立ツルヲ要ス

第百二十一條　失踪者名代人ヲ任シタル時ハ其失踪ノ時又ハ其最終ノ消息ヲ得タル時ヨリ滿十年ノ後ニ非サレハ其最親ノ遺物相續人、其失踪ノ公告ヲ得ルヿ及ヒ其失踪者ノ財産ヲ假リニ己レノ所有ト爲スノ許ヲ訴出ス可ラス

第百二十二條　其十年間內ニ名代人ヲ任シタル期限ノ盡タル時モ亦前條ニ記スル所ト仝一ナリトス但此場合ニ於テハ失踪者ノ財産ヲ支配セシム可キ爲メ此卷ノ第一章ニ記シタル如ク處置ス可シ

第百二十三條　失踪者ノ最親ノ遺物相續人其財産ヲ假リニ所有ト爲スヲ得タル時其失踪者ノ遺囑書アルニ於テハ失踪者ニ關係ヲ有スル者又ハ其地ノ裁判所ノ檢事ノ求メニ因リ其遺囑書ヲ開封シ失踪者ヨリ生存中ノ贈遺、々囑ノ贈遺ヲ受ク可キ者及ヒ其他失踪者ノ死後ニ其財産ヲ得可キノ權アル者假リニ其權ヲ行フヿヲ得可シ但此事ニ付テハ保證ヲ立ツ可シ

第百二十四條　財産ヲ共通シタル失踪者ノ配偶者、失踪公告ノ言渡ノ後尙ホ其財産ノ共通ヲ繼續セント欲スル時ハ失踪者ノ財

產ヲ其遺物相續人ノ假リニ所有ト爲ス事及ヒ失踪者ノ死シタル後ニ其財產ヲ得ヘキ權アル者ノ假リニ其權ヲ行フ事ヲ拒ミ配偶者自カラ其失踪者ノ財產ヲ支配スル特權ヲ得又ハ保ツヿヲ得ヘシ○又其配偶者財產ノ共通ヲ假リニ解除セント求ムル時ハ其財產ヲ取戻スノ權、其法律上ニテ得ル所ノ權、其契約シテ得タル所ノ權（此三條ハ第三篇第三卷ニ詳ナリ）ヲ行フヿヲ得可シ但失踪者ノ歸來シタル時ニ還與ス可キ財產ニ付テハ保證ヲ立ツ可シ

婦ハ其失踪セシ夫ト財產ノ共通ヲ繼續ス可キノ求メヲ爲シタル後ト雖ニ復タ其財產ノ繼續ヲ廢スルノ權ヲ保有ス可シ

第百二十五條　失踪者ノ財產ヲ假リニ所有トスルヲ得タル者ハ唯タ其財產ノ附托（第三篇第十一ヲ受クルノミニシテ之ヲ支配スルノ權ヲ得ルヿヲ止マル故ニ其後、失踪者ノ歸來スル時或ハ其消息ヲ得ルヿアルトキハ失踪者ニ其財產ノ計算ヲ爲ス可シ

第百二十六條　失踪者ノ財產ヲ假リニ所有トスルヲ得タル者又ハ失踪者ト財產ノ共通ヲ繼續セント定メタル配偶者ハ始審裁判所ノ檢事ノ面前又ハ檢事ノ撰ミタル治安裁判官ノ面前ニ於テ失踪者ノ動產及ヒ證書類ノ目錄ヲ記サシムル可シ

其動產ノ全部又ハ一部ヲ賣拂フ可キ道理アル時ハ裁判所ヨリ其賣拂ヲ言渡ス可シ○其賣拂ヲ爲シタル時ハ之ヨリ得タル所ノ金額ヲ失踪者ノ利益トナル可キ方法ニ用フヘシ又失踪者ノ爲メニ得タル入額モ亦仝一ノ方法ニ處置ス可シ

失踪者ノ財產ヲ假リニ所有トスルヲ得タル者ハ自己ノ安堵ノ爲メニ裁判所ヨリ任シタル評價人ヲシテ失踪者ノ不動產ヲ檢視シ其模樣ヲ證セシムルヿヲ求ムルヿヲ得ヘシ○此評價人ノ記

シタル書ハ撿事ノ面前ニ於テ之ヲ確的ノ者ト定ム可シ但其評價ノ費用ハ失踪者ノ財産中ヨリ取用フ可シ

第百二十七條　失踪者ノ財産ヲ假リニ所有トスルヲ得タル者又ハ法律上ニテ支配スルヲ得タル者ハ其失踪者、失踪ノ時ヨリ滿十五年內ニ歸來スルニ於テハ其所得ト爲シタル入額ノ五分一ヲ失踪者ニ還シ又十五年後ニ歸來スルニ於テハ其十分一ヲ還ス可シ

失踪三十年後ニ至レハ其失踪者ノ財産入額ノ全部ハ其財産ヲ假リニ所有トスルヲ得タル者又ハ法律上ニテ支配スルヲ得タル者ノ所得ト爲ス可シ

第百二十八條　失踪者ノ財産ヲ假リニ所有スル者ハ其失踪者ノ不動產ヲ人ニ贈與シ又ハ賣拂ヒ又ハ書入質ト爲スヲヲ得ス

第百二十九條　失踪者ノ遺物相續人其財產ヲ假リニ所有トスルヲ得タル時ヨリ三十年間失踪者ノ歸來セサル時又ハ財產ヲ共通シタル失踪者ノ配偶者其財產ヲ支配シタル時ヨリ三十年間失踪者ノ歸來セサル時又ハ其失踪者ノ生レシ時ヨリ滿百年ヲ經タル後失踪者ノ歸來セサル時ハ裁判所ヨリ其保證ノ免除ヲ言渡シ失踪者ノ財產ヲ得可キ權アル者ハ始審裁判所ニ其財產分配ノ事ヲ訴出シ其財產ヲ眞ノ所有ト爲スノ言渡ヲ受クルヲヲ得可シ

第百三十條　失踪者ノ死去セシ證アルトキハ其時ノ最親ノ遺物相續人ノ爲メ其時ヨリ遺物相續ノ事ヲ爲シ始ム可シ但其失踪者ノ財產ヲ假リニ所有スル者ハ第百二十七條ニ記スル所ニ循ヒ其者ノ所得トス可キ利益ヲ除ク外總テ其財產ヲ失踪者ノ遺物

相續人ニ引渡スヘシ

第百三十一條　失踪者ノ財産ヲ其相續人ノ假リニ所有スル時間ニ失踪者ノ歸來スル時又ハ其生存ノ證ヲ得タル時ハ嘗テ爲シタル失踪公告ノ言渡ヨリ生セシ諸件ヲ取消スヘシ但此規則ト失踪者ノ財産ヲ支配スル爲メ本卷ノ第一章ニ記セシ如ク財産ヲ保全スル爲メニナシタル處置ト相觸ルヽコトナカルヘシ

第百三十二條　若シ失踪者ノ歸來スル時又ハ其生存ノ證ヲ得タル時ハ假令ヒ其財産ヲ眞ノ所有ト爲シタル者アリシ後ト雖ニモ其失踪者ハ己レノ財産ヲ其時ノ儘ヲ以テ取戻スコトヲ得ヘシ且既ニ賣拂ヒシ財産ノ代金又ハ其代金ヲ以テ得タル財産モ亦取戻スコトヲ得ヘシ

第百三十三條　又失踪者ノ子及ヒ宗系高曾祖父母ヨリ玄曾孫ニ至ルマテノ類ヲ云フ卑屬ノ親子、孫、玄孫、曾孫等ノ類ヲ云フハ其失踪者ノ財産ヲ眞ノ所有ト爲シタル者アル時ヨリ三十年間前條ニ記セシ如ク其財産取戻ノ訴ヲ爲スコトヲ得可シ

第百三十四條　失踪公告ノ言渡ヲ爲シタル後ハ其失踪者ニ對シ訴ヲ爲ス可キ權アル者ヨリ失踪者ノ財産ヲ假リニ所有ト爲スヲ得タル者又ハ法律上ニテ其財産ヲ支配スルヲ得タル者ニ對シ其訴ヲ爲ス可シ

○失踪者ニ屬スル事

第百三十五條　生存ノ分明ナラサル者ニ屬ス可キ權利ヲ己レニ得ント訴フル者ハ嘗テ其權利ノ生シタル時生存ノ分明ナラサル者ノ現ニ生存シタルノ證ヲ立ツ可シ但其證ヲ立テサル間ハ其訴ヲ允許セサルノ言渡ヲ受ク可シ

第百三十六條　生存分明ナラサル者ノ得ヘキ遺物相續ノ事ハ其者ト相共ニ遺物相續ヲ爲ス可キ權アル者又ハ其生存ノ知レサル者ニ代リテ遺物相續ヲ爲ス可キ者ニ全ク其遺物相續ヲ爲サシム可シ

第百三十七條　前二條ノ規則ト失踪者又ハ其名代人又ハ代權人ノ己レニ屬ス可キ遺物相續ノ權及ヒ其他ノ權ノ期滿免除（第二百十九條以下參考）ノ期限ニ至ラサル時間ニ此等ノ權ヲ得ント出訴スルヲ得ヘキ規則ト相觸ルヽコトナカル可シ

第百三十八條　失踪者ノ得可キ遺物相續ヲ爲シタル者ハ失踪者ノ歸來セサル時間又ハ失踪者ノ權ニ代リテ前條ニ記シタル訴訟ヲ爲ス者ナキ時間ニ其正實ニ得タル利益ヲ己レノ所得ト爲スコトヲ得可シ

○婚姻ノ事ニ係ル失踪ノ效

第百三十九條　失踪者ノ配偶者、再婚ノ契約ヲ結ヒタル時ハ其失踪者自カラ其再婚ノ取消ヲ訴ヘ又ハ自己ノ生存ノ證書ヲ與ヘタル名代人ヲシテ之ヲ訴ヘシムルコトヲ得可シ

第百四十條　若シ失踪者ノ遺物相續ヲ爲ス可キ血屬アラサル時ハ其配偶者ヨリ其財產ヲ假リニ所有ト爲サンコトヲ訴フルヲ得可シ

○父ノ失踪シタル時ニ幼年ノ子ヲ監督スル事

第百四十一條　若シ父其夫婦ノ間ニ擧ケタル幼年ノ子ヲ遺留シテ失踪シタル時ハ其母其子ヲ監督シテ其子ノ敎育及ヒ其財產ノ支配ニ關シ父ノ權ヲ行フ可シ

第百四十二條　父ノ失踪ノ時、母既ニ死去シ又ハ父ノ失踪ヲ公告

スル前ニ母ノ死去セシ時ハ父ノ失踪ノ時ヨリ六月ノ後ニ至リ親族會議ニ於テ其子ノ監督ヲ其最親ノ尊屬親ニ任ス可シ若シ其最親ノ尊屬親アラサル片ハ之ヲ假リ後見人ニ任ス可シ

第百四十三條　失踪ノ夫又ハ婦ノ前婚ニテ舉ケタル幼年ノ子ヲ遺留シタル時モ亦前條ニ仝シ

○治罪法摘要

○檢事其職務ヲ行フニ付キ處置ヲ爲ス方法

第二十九條　何人ニ限ラス總テ官吏其職務ヲ行フニ當リ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタル者アルコトヲ知リタル片ハ其犯罪ノ地ヲ管轄スル裁判所ノ檢事又ハ犯人ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ノ檢事ニ即時ニ其旨ヲ報告シ且之ニ關シタル書類、調書、證書等ヲ其檢事ニ送ル可シ

第三十條　何人ニ限ラス公ケノ安寧ヲ害シ又ハ人命或ハ所有物ヲ害スル犯罪ヲ目擊シタル者ハ其犯罪ノ地ノ檢事又ハ犯人ノアル地ノ檢事ニ即時ニ其旨ヲ報告ス可シ

第三十一條　犯罪ノ申立書ハ其申立人自カラ之ヲ記シ又ハ其名代人之ヲ記シ又ハ檢事本人ノ求メニ因リ之ヲ記ス可シ但其申立書ノ每葉ニハ檢事其姓名ヲ手署シ並ニ申立人或ハ其名代人之ニ姓名ヲ手署ス可シ

若シ其申立人或ハ其名代人、姓名ヲ手署スルコトヲ知ラス又ハ手署スルコトヲ欲セサル片ハ其旨ヲ附記ス可シ

名代人ヲ立ル證書ハ申立書ニ添ヘ置ク可シ若シ申立人其申立書ノ寫ヲ得ント欲スル時ハ稅銀ヲ出シテ之ヲ受取ルコトヲ得可シ

第三十二條　若シ施體又ハ加辱ノ刑ニ處スヘキ罪（即チ重罪）ヲ現ニ行フヲ見ル時ハ檢事即時ニ其場ニ到リ犯罪ニ關シタル物件並ニ其模樣及ヒ其場ノ模樣ノ證ヲ立ルニ必要ナル調書ヲ造リ且其場ニ在ル人又ハ犯罪ノ模樣ヲ知リタル人ノ申述ヲ聽ク可シ

檢事ハ其犯罪ノ場ニ到リシ旨ヲ豫審裁判官ニ報告ス可シ但此章ニ記スル如ク相當ノ處置ヲ爲スニ付テハ裁判官ノ來ルヲ待ツニ及ハス（第四十七條參考）

第三十三條　檢事ハ前條ノ場合ニ於テ調書ヲ造ルニ付キ犯罪ノ爲メ害ヲ受ケタル者ノ親族、隣人、僕婢ヲ呼寄セ其申述ヲ聽ク可シ但其申述書及ヒ前條ノ申述書ニハ其申述ヲ爲ス者、姓名ヲ手署ス可ク又手署スルコトヲ肯セサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

第三十四條　檢事ハ其調書ヲ造リ終ルニ至ルマテ如何ナル人ト雖ニ犯罪アリシ家ヲ出ルコトヲ禁シ又ハ他所ニ到ルコトヲ禁スルヲ得可シ

若シ此禁制ニ背ク者アルトキハ之ヲ召捕ヘテ輕罪裁判所附ノ留置場ニ入レ置ク可シ但其禁制ヲ犯シタルニ付テノ刑ハ其犯人ヲ豫審裁判官ノ面前ニ呼出シテ其申述ヲ聽キ檢事求刑ノ上其裁判官之ヲ言渡ス可シ又其犯人出席セサルトキハ出席セサル儘ニテ其刑ヲ言渡ス可シ○此言渡ヲ爲スニ付テハ別ニ法式ヲ用スルコトナク又猶豫ヲ許スコトナク且其言渡ニ付キ故障ヲ申述ヘ又ハ之ヲ控訴スルコトヲ許サス

其刑ハ十日間ノ禁錮ト百法ノ罰金トニ過クルコトナカル可シ

第三十五條　檢事ハ重罪又ハ輕罪ヲ行フニ用ヒ又ハ其用ニ備ヘタル可シト思フ所ノ兵器及ヒ其他ノ物件幷ニ其罪犯ニ因リ得

タル可シト思フ所ノ物件ヲ取上ケ且事實ヲ分明ナラシムルニ用立ツ可キ物件ヲ取上ケ此等ノ物件ヲ被告人ニ示シテ其辨解ヲ爲サシメ此等ノ諸事ヲ調書ニ記シテ被告人ニ姓名ヲ手署セシム可シ若シ被告人手署スルコヲ肯セサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

第三十六條　若シ重罪又ハ輕罪ノ模様ニ因リ被告人ノ所持スル書類及ヒ物件ヲ以テ犯罪ノ證ヲ得可シト思フ時ハ檢事即時ニ被告人ノ住所ニ到リ事實ヲ分明ナラシムルニ有益ナリト思フ物件ヲ捜索ス可シ

第三十七條　被告人ノ住所ニ其犯罪ノ證トナリ又ハ無罪ノ證トナル可キ書類又ハ物件アルヤハ檢事之ヲ調書ニ記シテ其書類又ハ物件ヲ取上ク可シ

第三十八條　檢事ハ其取上ケタル書類又ハ物件ヲ封シテ之ニ印ヲ押ス可シ若シ其物件封印ヲ爲スコ能ハサル時ハ之ヲ壺中又ハ袋中ニ入レ其上ニ紙帶ヲ附シテ之ニ封印ヲ爲ス可シ

第三十九條　前數條ニ記シタル處置ハ被告人ヲ召捕ヘタル時ハ其面前ニテ之ヲ爲ス可シ若シ被告人之ニ立會フコヲ欲セス又ハ立會フコヲ得サル時ハ其名代人ノ面前ニテ之ヲ爲ス可シ○檢事ノ取上ケタル物件ハ被告人ニ示シテ之ヲ認メシメ其物件、姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ書シ得可キ者タル時ハ之ヲ書サシム可シ若シ被告人之ヲ肯セサルトキハ其旨ヲ調書ニ記ス可シ

第四十條　施體又ハ加辱ノ刑ニ處ス可キ罪ヲ現ニ行フタル時、被告人ニ犯罪ノ重キ徴憑アリテ且被告人其場ニアルニ於テハ檢事之ヲ召捕ヘシム可シ

若シ被告人其場ニアラサルトキハ檢事之ヲ引出サシムル爲メ引出狀ヲ出ス可シ（第九十一條參考）

第四十一條　犯罪ノ申立アルノミニテハ住所アル被告人ニ對シ其引出狀ヲ出スニ足ル可キ證アリトセス

檢事ハ被告人ヲ引出シ次第即時ニ之ヲ問糺ス可シ（此等ノ緒事ハ通常豫審

（裁判官ノ爲ス可キ所ナレトモ現行犯罪ノ時ハ檢事之ヲ行フヲ得ヘシ）

第四十一條　現ニ行フ所ノ犯罪又ハ即今行ヒ終リタル犯罪ヲ現行ノ犯罪ト云フ

又衆人ニ犯罪ヲ高聲ニ呼ヒ追ハルヽ時又ハ被告人犯罪ノ時ヨリ間モナク兵器、器具、書類、物件等ヲ携ヘタルニ因リ之ヲ其犯罪ノ主又從ナリト思料ス可キ時ハ亦現行ノ犯罪ナリトス

第四十二條　前數條ニ循ヒ檢事ノ造ル可キ調書ハ其犯罪ノ邑ノ警察使又ハ邑長又ハ其邑内ニ住スル者二人ノ面前

ニテ之ヲ造リ且此等ノ者其調書ニ姓名ヲ手署ス可シ

然レトモ檢事即時ニ立會人ヲ得ルヿ能ハサルトキハ立會人ナクシテ調書ヲ造ルヿヲ得可シ

檢事及ヒ立會人ハ調書ノ每葉ニ姓名ヲ手署ス可シ立會人、姓名ヲ手署スルヿヲ肯セス又ハ手署スルヿヲ得サル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

第四十三條　檢事ハ所要ノ場合ニ於テ醫術、職業ニ因リ犯罪ノ種類ト摸樣トヲ鑒定シ得可キ者一人又ハ二人ヲ同伴ス可シ

第四十四條　非命死アル時又ハ原由ノ知レサル疑ハシキ死アル時ハ檢事、醫官二名ヲシテ立會ヲ爲サシム可シ但醫官二名ハ其死ノ原由ト死體ノ模樣トニ付キ申立書ヲ造ル可シ

本條ト前條トニ記シタル立會人ハ檢事ノ面前ニテ本心ニ思フ

所ニ從ヒ正直ニ其說ヲ申立ツ可キノ誓ヲ爲ス可シ

第四十五條　檢事ハ前數條ニ循ヒ造リタル調書及ヒ其他ノ書類又ハ其取上ケタル書類又ハ器具類ヲ遲延ナク豫審裁判官ニ送リ其裁判官ハ第六章ニ記スル如ク處置ス可シ但犯人ハ檢事ノ引出狀ニ因リ之ヲ相當ノ官吏（使吏又ハ公ケノ兵力ヲ預カル官吏）ニ預ケ置ク可シ

第四十六條　現行犯罪ノ場合ニ非スト雖ヒ家屋内ニ於テ重罪又ハ輕罪ヲ行フタルニ因リ其家長ヨリ檢事ニ其犯罪ノ證ヲ立ツ可キコトヲ求メタルトキハ檢事、現行犯罪ノ場合ニ付キ前數條ニ定メタル權ヲ行フコトヲ得ヘシ

第四十七條　第三十二條及ヒ第四十六條ノ場合ノ外、人ヨリノ申立ニ因リ又ハ其他ノ方法ニ因リ己レノ管轄地内ニテ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタル者アルヲ知リ又ハ犯人己レノ管轄地内ニ在ルヲ知リタル檢事ハ豫審裁判官ニ第六章ニ記シタル如ク其取調ヲ爲シ又已ムヲ得サルトキハ其犯罪ノ場所ニ到リテ調書ヲ記ス可キコトヲ求ム可シ

○檢事ヲ輔佐スル警察官吏ノ事

第四十八條　治安裁判官、備警隊士官、警察使ハ平常其職務ヲ行フ地ニ於テ犯シタル重罪又ハ輕罪ノ申立ヲ聽ク可シ

第四十九條　現行犯罪ノ時又ハ家長ヨリ求ヲ受ケタル時ハ此等ノ官吏調書ヲ記シ、證人ノ申述ヲ聽キ、見分ヲ爲シ及ヒ其他此等ノ場合ニ於テ檢事ノ爲ス可キ諸事ヲ爲ス可シ但此等ノ事ヲ爲スニ付テハ第四章ニ記シタル規則ニ循フ可シ

第五十條　邑長及ヒ副邑長又ハ警察使ハ亦犯罪ノ申立ヲ聽キ前

條ニ記シタル諸事ヲ行フヿヲ得可シ但此等ノ事ヲ行フニ付テハ第四章ノ規則ニ循フ可シ

第五十一條　若シ檢事ノ權ト前數條ニ記シタル警察官吏ノ權ト相觸ルヽ時ハ檢事司法警察ノ諸事ヲ行フ可シ若シ前數條ニ記シタル警察官吏先ヲニ其警察ノ處置ニ取掛リタル時ハ檢事其處置ヲ爲シ始メタル官吏ヲシテ引續キ之ヲ爲サシムルヿヲ得可シ

第五十二條　第三十二條及ヒ第四十六條ニ循ヒ職務ヲ行フ檢事有益ニシテ且必要ナリト思料スル時ハ補佐ノ警察官吏ヲシテ自己ノ爲ス可キ諸事中其一部ヲ爲サシムルヿヲ得可シ

第五十三條　檢事ノ補佐ヲ爲ス警察官吏ハ犯罪ノ申立書幷ニ其調書及ヒ其他ノ書類ヲ遲延ナク檢事ニ送リ檢事ハ即時ニ此等ノ書類ヲ檢視シテ其相當ト思フ求需ノ書ヲ添ヘ之ヲ豫審裁判官ニ送ル可シ

第五十四條　司法警察官吏自カラ直チニ證ヲ立ツルヿヲ得可キ重罪犯又ハ輕罪犯ノ場合ノ外ハ其犯罪ノ申立書ヲ遲延ナク檢事ニ送リ檢事求需ノ書ヲ添ヘテ之ヲ豫審裁判官ニ送ル可シ

○失踪者ノ收獲物

失踪シ又ハ疾病ニ罹リ或ハ已ムヲ得サルノ事故アリテ自身ニ收獲物ノ取入レヲ爲スヿ能ハサルニ因リ援助ヲ出願スル農夫アルトキハ邑官ヨリ人夫ヲ出シテ其收獲物ノ取入レヲ爲サシムル可シ

邑官ハ法律ノ保護ニ係ル此取入レヲ成ルヘク廉價ニ爲サシムルヿニ注意ス可シ

人夫ニ拂フ可キ賃銀ハ農夫ノ收獲物ヨリ扣除スルモノトス（以上千七

百九十一年九月二十八日決定十月二十日公布ノ法律第一章第五款第一條）

公務ノ爲メニ不在ナル者ノ財産ハ所轄ノ邑官ニ於テ之ヲ監視スル可シ（共和五年霧月六日ノ法律）

○治安裁判官ニ爲ス可キ報告

治安裁判官ノ居住セサル各邑ニ於テ相續人トシテ幼者又ハ失踪者ヲ遺シ死去シタル者アル時ハ邑長又ハ副邑長ヨリ速ニ其旨ヲ本縣内ニ居住スル治安裁判官ニ報告ス可シ（共和五年牧月二日ノ布令）

○斷案

檢察官ハ關係人ノ姓名及ヒ身分ト失踪者ノ失踪シタル時限及ヒ理由トヲ記シタル失踪ノ公告言渡書ノ摘撮書及ヒ其海陸軍人ニ係ルトキハ此事ニ付テ得タル案據ト其失踪ノ公告言渡書ノ摘撮書トヲ司法卿ニ送呈スルヲ要ス必スシモ其言渡書ノ副本ヲ送呈ス

ルニ及ハス（千八百二十五年十月三日破毀法院）

檢察官ヨリ失踪者ノ動産及ヒ證書ノ目錄ヲ造ラル爲メニ參會ス可キノ求メヲ受ケタル治安裁判官ハ旅費又ハ手數料ヲ求ムルヲ得ス（千八百二十四年十二月二十日同院）

○邑長及ヒ警察使ノ義務

失踪シタリト思度ス可キ者アルトキハ其親族、朋友、鄰佑若シハ失踪者ニ關係ヲ有スル者ヨリ其地ヲ所轄スル保安官、邑長又ハ警察使ニ届出ツ可シ但其届書ニハ失踪者ノ姓名、身分、職業、人相ト失踪ニ係ル摸樣トヲ記載スルモノトス

失踪者、其住所若シハ室内ニ於テ死去シタルノ疑ナキ時ハ邑長又ハ警察使ヨリ檢事ニ届書ヲ送致シ且州長又ハ郡長及ヒ治安裁判官ニ其旨ヲ報告ス可シ

又其死去シタルノ疑アル時ハ保安官ハ現場ニ出張シ證人二名立會ノ上ニテ門戸ヲ開カシメ共ニ失踪者ノ住所ニ入リテ捜索ヲ行フ可シ

住所ニ於テ死體ヲ見出シタルトキハ保安官ニ於テ其模様ノ證ヲ取リテ調書ヲ造リ且其財産ニ封印ヲ附スル爲メ治安裁判官ニ報知ス可シ

○處分手續

第一項　警察官ハ證憑ヲ蒐集シタル後ニ重立タル隣人ノ面前ニ於テ失踪者ノ住所ノ門戸ヲ開カシムルヿヲ得可シ

第二項　頓死シ又ハ自殺シタル者アル時ハ其死去及ヒ死体ノ摸様ヲ證明スル爲メニ醫師ヲ招ク可シ

第三項　若シ其親族ノ者近傍ニ居住スル時ハ之ニ報知ス可シ

第四項　犯罪ノアリタル時ハ即時ニ其旨ヲ檢事ニ報告ス可シ

第五項　非理ノ所業又ハ其他ノ原因ノ爲メニ失踪シタリト思度スル場合ニ於テ其住所ノ門戸開放シアリタル時ハ即時ニ之ヲ閉鎖ス可シ

第六項　何レノ場合ニ於テモ調書ヲ作ル可シ

第七項　死者アル場合ニ於テハ死亡證書ヲ作ルノ用ニ供スル爲メ其調書ノ撮錄書ヲ邑廳ノ身上證書局ニ送付ス可シ

第八項　失踪者ノ財産ニ封印ヲ附スル爲メ其地所轄ノ

治安裁判官ニ報知ス可シ

○調書ノ文例

千八百何年、何月、何日、余官吏ノ姓名、官職、住所ヲ記ス ノ面前ニ某氏等届出人ノ姓名、年齢、職業、住所ヲ記ス 出頭シ某地ニ單身居住スル男某若クハ婦某何日以來其容ヲ現ハサス且其失踪ノ原因詳カナラサルヲ

右届出ニ由リ某氏カ失踪ノ原因ハ災變或ハ兇行ニ罹リ死ヲ致シタルモノト察セラルヽヲ以テ余前ニ記セシ官吏 即時ニ其門戸ヲ開發セシメ左ノ件々ヲ目擊シタリ若シ失踪者コヽニ見出シタル時ハ其容體及ヒ住所ノ模様ヲ記スヘシ又其住所ニ於テ錯雜狼籍ノ模様ヲ目擊シタル時ハ之ヲ記スヘシ

（自殺シタル者又ハ災變或ハ兇行ニ罹リ死去シタル者アル時ハ前ニ掲ケタル規則ニ循ヒ精細ニ之ヲ記スヘシ）

是ニ由テ余本書ヲ作リ之ヲ朗讀シタル後、證人及ヒ立會人ト共ニ之ニ姓名ヲ手署シタリ

◎擅權（原語「アビユ、ドオートリテー」）

各人ノ自由、官吏ノ濱職、家宅ノ臨檢ノ部ヲ參照ス可シ

擅權トハ各官吏ニ於テ法律上ニ允許セサル權ヲ妄用スル事ヲ云フ其最モ重ナル所爲ハ左ノ如シ

第一　擅ニ人ノ住所ニ侵入スル事

第二　裁判ヲ爲スヲ肯セサル事

第三　濫リニ人ヲ捕縛シ又ハ監禁スル事

第四　裁判令狀又ハ裁判宣告書ヲ執行スルカ爲メ正當ノ理由ナキニ暴行ヲ用フル事

第五　書簡ヲ棄滅シ又ハ其秘密ヲ訐ク事

第六　兵力ヲ妄用スル事

○刑法摘要

○人民ノ自由ヲ害スル暴行

第百十四條　官吏又ハ政府ヨリ委任ヲ受ケシ者、各人ノ自由ニ對シ又ハ一人或ハ數人ノ公權ニ對シ又ハ憲法ニ對シテ阻撓ノ所爲又ハ其妨害トナル可キ所爲ヲ命シ或ハ行フタル時ハ公權剝奪ノ刑ニ處ス可シ

然レ𪜈命ヲ奉ス可キ長官ノ管轄タル條件ニ付キ其長官ノ命ニ因リ前項ノ罪ヲ犯シタル確證アルトキハ其犯人ノ刑ヲ免シテ命ヲ下シタル長官ヲ其刑ニ處ス可シ

○平民ニ對スル擅權ノ罪

第百八十四條　行法官、司法官、裁判官、警察官及ヒ公力ノ指揮官其職務ヲ以テ事ヲ處置スルニ當リ法律ニ定メタル場合外ニ於テ法律上ニ規定スル法式ニ循ハス人民ノ意ニ逆フテ其住所ニ入リタルトキハ六日以上一年以下ノ禁錮ニ處シ且十六法以上五百法以下ノ罰金ニ處ス可シ但本條ノ規則ト第十四條第二項ノ規則ト相觸ルヽコトナカル可シ

何人ニ限ラス脅迫又ハ暴行ヲ以テ人民ノ住所ニ入リタル者ハ六日以上三月以下ノ禁錮ニ處シ且十六法以上二百法以下ノ罰金ニ處ス可シ

第百八十五條　裁判官又ハ行法官、裁判ヲ爲スノ求メヲ受ケタル後、法律ノ不備或ハ不委ヲ口實トシ又ハ其他ノ事ヲ口實トシテ其裁判ヲ爲スコトヲ肯セス且其長官ノ譴責或ハ命令ヲ受ケタル

後猶ホ固執シテ其裁判ヲ爲サヽル時ハ二百法以上五百法以下ノ罰金ニ處シ且五年以上二十年以下ノ時間公務ヲ行フコヲ禁ス可シ

第百八十六條　上等官吏及ヒ其他ノ官吏行政官吏政府ヨリ委任ヲ受ケタル者警察吏員裁判言渡ヲ執行スルノ命ヲ受ケシ者公力ノ指揮官及ヒ其所屬士官其職務ヲ行フニ當リ正シキ理由ナクシテ人ノ身體ニ對シ暴行ヲ加ヘ又ハ加ヘシメタル時ハ其暴行ノ種類ト輕重トニ從テ處刑ス可シ但其刑ノ次第ハ第百九十八條ニ記スル規則ニ從フ可シ

第百八十七條　政府ノ長官及ヒ官吏又ハ驛遞ノ長官及ヒ官吏其遞送ス可キ書翰ヲ故ラニ遺失シ又ハ開封シ或ハ此等ノ事ヲ助ケタル時ハ十六法以上五百法以下ノ罰金ニ處シ且三月以上五年以下ノ時間公務ヲ行フコヲ禁ス可シ

○公事ニ對スル擅權ノ罪

第百八十八條　政府ノ上等官吏及ヒ其他ノ官吏又ハ政府ヨリ委任ヲ受ケシ者其身分位階ノ如何ヲ論セス法律ヲ施行スル事又ハ正當ノ租稅ヲ收納スル事又ハ裁判所ノ言渡ヲ執行スル事又ハ其他正當ノ權威アル者ヨリ出シタル命令ヲ行フ事ニ背キテ兵ヲ動シ或ハ用フルコヲ求メ或ハ之ヲ命シ又ハ兵ヲ動シ或ハ用フルコヲ求メシメ或ハ之ヲ命セシメタル時ハ懲役ニ處ス可シ

第百八十九條　前條ニ記シタル求メヲ爲シ又ハ命ヲ下シテ現ニ其兒行ヲ行フタル者ハ至重ノ懲役ニ處ス可シ

第百九十條　前條ニ記シタル官吏其命ヲ奉ス可キ長官ノ管轄タル條件ニ付キ其長官ノ命ニ因リ前條ニ記シタル罪ヲ犯シタル時ハ其官吏ヲ前二條ニ記シタル刑ニ處ス可シ

第百九十一條　前數條ニ記シタル命ヲ下シ又ハ求メヲ爲シタル長官ヲ其刑ニ處ス可シ

ニ因リ第百八十八條及ヒ第百八十九條ニ記シタル刑ヨリ更ニ重キ刑ヲ以テ罰ス可キ重罪ヲ犯シタル時ハ其命ヲ下シ又ハ其求メヲ爲シタル官吏ヲ其重刑ニ處ス可シ

◎背信「原語アビユ、ドコンヒアンス」ノ部ヲ參照ス可シ

詐僞倒産ノ部ヲ參照ス可シ

背信ノ罪ハ重ニ左ニ揭擧スル場合ニ行ハルヽ者ナリ

第一　幼者ノ怯心、窮乏、情慾ニ乘シ義務ノ證書、手形、約定書、算還證書ニ其姓名ヲ手署セシムル時

第二　人ノ姓名ヲ手署シタル白紙ヲ妄用スル時

第三　器具、商品、消耗品、手形、算還證書又ハ其他ノ書類ヲ受取リ後ニ之ヲ還シ又ハ示ス可キノ約ヲ爲シ其約ニ背キテ之ヲ竊取シ又ハ消費シテ其所有主ノ損害ヲ爲ス時

○刑法摘要

第四百六條　幼者ノ窮乏、怯心、情慾ニ乘シ其損害トナル可キ方法ヲ用ヒ其幼者ヲシテ金銀、動產、商業手形又ハ其他ノ手形類ヲ貸借スル義務ノ證書又ハ算還證書ニ其姓名ヲ手署セシメタル者ハ其取引掛合ヲ爲ス方法ノ如何ト又其口實ノ如何トヲ問ハス二月以上二年以下ノ禁錮ニ處シ且其犯罪ノ爲メ損害ヲ受ケタ

ル者ニ償還スヘキ總高ノ四分一以下二十五法以上ノ罰金ニ處ス可シ又其犯人ヲ前條ノ次項ニ記シタル刑ニ處スルヲ得可シ

第四百七條　人ノ姓名ヲ手署シタル白紙ヲ預リ詐偽ヲ以テ其白紙ニ借入ノ證又ハ算還ノ證ヲ記入シ又ハ其他其白紙ニ姓名ヲ手署セシ者ノ身體又ハ産業ノ爲メ害トナル可キ證ヲ記入シタル者ハ第四百五條ニ記シタル刑ニ處ス可シ

若シ其白紙ヲ預カラサル者ニ於テ其罪ヲ犯シタル時ハ贋造人トシテ出訴シ其刑ニ處ス可シ

第四百八條　借受、附托、質入、借用ノ爲メ或ハ雇賃ノ有無ヲ論セス人ノ用ヲ達スル爲メ人ヨリ動産、金銀、商品、手形、算還證書又ハ其他借受或ハ算還ノ證書類ヲ受取リ後ニ之ヲ還シ又ハ示シ又ハ

定マリタル用法ニ之ヲ用フ可キノ約ヲ爲シ其約ニ背キ此等ノ諸件ヲ竊取シ又ハ消費シテ其所有若ヲ損害シタル者ハ第四百六條ニ記シタル刑ニ處ス可シ

若シ行政又ハ裁判ニ關スル官吏前項ニ記スル背信ノ罪ヲ犯シタル時又ハ僕、婢、雇人、弟子、書記、家僮、工丁、年季弟子ノ其主又ハ師ニ對シ其罪ヲ犯シテ害ヲ爲シタル時ハ懲役ニ處ス可シ

但此規則ト第二百五十四條、第二百五十五條、第二百五十六條ニ記セシ公ケノ預リ所ニ藏スル金銀、動産、證書類ヲ竊取、掠奪スル罪ヲ罰スル規則ト相觸ルヽコトナカル可シ

第四百九條　訴訟ヲ爲スノ時ニ於テ證書又ハ覺書ノ類ヲ裁判所ニ出シタル後ニ如何ナル方法ヲ以テスルヲ問ハス其證書又ハ覺書ヲ竊取シタル者ハ二十五法以上三百法以下ノ罰金ニ處ス

可シ

但其刑ハ訴訟ヲ管理シタル裁判所ニ於テ之ヲ言渡ス可シ

○斷案

刑法ニ記スル所ノ背信罪中ニハ諸種ノ行爲ヲ含蓄スト雖モ其三種ノ行爲ハ各自特別ノ名稱ヲ有セリ即チ幼者ノ情慾ノ妄用（第四百六條）人ノ姓名ヲ手署シタル白紙ノ妄用（第四百七條）裁判所ニ出シタル證書又ハ覺書ノ竊取是レナリ

（背信罪一般ノ性質）背信罪ヲ組成スルニハ刑法第四百八條ニ記列シタル名義中ノ一ヲ以テ物品ノ附托ヲ受ケタルト其物品ヲ竊取シ又ハ消費シタルトノ二個ノ模樣ヲ具備スルヲ必要トス故ニ此二個ノ模樣中其一ヲ欠ク場合ニ於テハ固ヨリ道德ニ背戻スル行爲タリト雖モ之ヲ以テ處罰ス可キノ犯罪ト爲スヲ得ス

シレー氏著斷案全書

凡ソ背信罪ハ他人ニ屬シタル物品ヲ己レニ屬スルノ所爲ト詐僞ノ謀企トノ二個ノ元素ヨリ成立ツモノトス（千八百四十九年八月三十日破毀法院）

（附托物ノ妄用）左ニ叙列スル事ヲ爲シタル者ハ背信罪ヲ以テ論ス可シ

附托ヲ受ケタル物品ヲ竊取シテ人ニ損害ヲ被ムラシメタル看守人（千八百十三年五月十五日同院）

商品ヲ買入ント欲スル旨ヲ其商人ニ告ケ他人ニ示スノ口實ヲ以テ此商品ヲ己レニ渡サシメテ之ヲ竊取シタル者（千八百三十六年六月十八日同院）

表書ニハ自己ノ姓名ヲ記載シアルモ豫テ之ヲ受取ル可キノ委托ヲ爲シタル人ニ送達ス可キ書狀ヲ竊取シタル者（千八百四十一年五月二

（十二日同院）

附托者ニ於テ金銭ヲ藏スル簞笥ノ鍵ヲ所持スルト雖モ其被托者ニ於テモ亦此簞笥ヲ入レ置ク所ノ室又ハ箱ノ鍵ヲ所持スルニ當リ其住所ニ附托シタル金銭ヲ消費シタル時（千八百三十八年二月十六日同院）

然レモ錠前ヲ卸シタル革箱ニ納メタル金銭物品ヲ人ニ附托スルハ附托者ニ於テ能ク其人ヲ信認シテ附托シタルモノニ非ス故ニ偽論ヲ用ヒテ此革箱ヲ開キ其中ニ納メ置キタル金銭物品ヲ竊取シタル者ハ盜罪ヲ以テ論ス可シ（千八百三十八年四月十九日同院）

附托物ノ妄用ヲ處罰スル刑法第四百八條ハ附托ノ契約ヲ爲サス又其看守ヲ委托シタルニ非スシテ唯之ヲ示スカ爲メニ渡シタル物品ヲ還付セサルノ所爲ニ適用スルヲ得ス（千八百六十六年十一月八日同院）

檢查ヲ名トシテ受取リタル時計又ハ食事ノ爲メニ借受ケタル器具ヲ竊取スルノ所爲ハ背信罪ヲ以テ論ス可シ（千八百六十六年十一月八日同院）

（代理人）代理人ニ於テ其委托セラレタル金銭若クハ物品ヲ返還スルヲ拒ミ或ハ返還スルヲ得ス又ハ定マリタル用法ニ之ヲ用ヒタルコトヲ辯明スルヲ拒ミ又ハ辯明スルヿ能ハサルニ非サレハ背信罪ヲ成シ遂ケタリトヲ得ス故ニ竊取ノ所爲モ亦返還ス可キノ約束又ハ定マリタル用法ニ用フ可キノ約束ヲ以テ渡シタル金銭ヲ返還スヘキノ請求ヲ受ケタルモ返還セサリシトキニ非サレハ之ヲ成シ遂ケタリ可ラス（千八百五十一年五月五日同院）

代理人ニ於テ其附托セラレタル金銭ヲ竊取シテ一時自己ノ利益ノ爲メニ消費シタルモ出訴前ニ之ヲ償還シタルニ於テハ背信罪ヲ以テ論スルヿヲ得ス（千八百二十九年七月十七日同院）

背信罪ハ委任狀ニ循ヒ受取リタル物品ヲ現ニ消費シ又ハ竊取スルヨリ成立ツ者ナリ故ニ其物品ヲ示スヿヲ怠タリ又ハ其報告ヲ爲スヿヲ怠タリタルノミヲ以テ背信罪ト爲スヿヲ得ス（千八百三十七年五月四日全院）

定マリタル用法ニ用フ可キノ約束ヲ以テ人ヨリ受取リタル金錢ヲ自己ノ利益ノ爲メニ消費シタル代理人ノ所爲ニ於テ詐僞ヲ用ヒサルヿ及ヒ附托者ヲ損害スルノ謀企アラサルヿ明白ナルトキハ處罰ス可キ背信ノ性質ヲ有セサルモノト看做スヿヲ得可シ（千八百六十六年十二月二十九日全院）

然レトモ人ヨリ預リタル金錢ヲ自己ノ利益ノ爲メニ消費シタル代理人ノ所爲及ヒ模樣ニ於テ之ヲ償還スルヿ能ハサルヲ豫知セシヿ明白ナルトキハ此限ニ在ラス（千八百四十五年十一月十一日同院）

刑法第四百八條ヲ適用スルニハ人ニ拂渡シ又ハ貸與フルノ約束ヲ以テ受取リタル金錢若クハ物品ヲ竊取セシヨリ利ヲ得タルヿヲ要ス（千八百六十七年三月十日同院）

公路上ニ於テ新聞紙ヲ販賣スル者、其賣上代金ヲ竊取シタル時ハ背信ノ罪ヲ犯シタル者トス（千八百六十九年十二月二十三日全院）

食品ヲ買入ルヽ爲メ主人ヨリ金錢ヲ受取リ之ヲ其供給者ニ拂ハスシテ自己ノ利益ノ爲メニ消費シタル家僕ハ刑法第四百八條ノ第二項ニ記シタル刑ニ處ス可キモノトス（千八百四十二年一月二十八日同院）

自己ノ住所ニ於テ細工ヲ爲シ其製作シタル物ノ多寡ニ應シ工銀ヲ受ケ可キノ約束ヲ以テ人ヨリ受取リタル原資ノ一部ヲ竊取シタル者ハ背信ノ刑ニ處ス可シ（千八百六十三年十二月十日同院）

刑法第四百八條ハ孤兒ノ財産ヲ竊取シ及ヒ消費シタル後見人ニ適用ス（千八百六十六年四月二十八日同院）（幼者ノ情慾ノ妄用）刑法第四百六條ハ幼者ノ情慾ヲ妄用スルノ結果、口上ノ約束ニ止マリタル場合ニ適用スルヲ得ス（カルノ氏）

刑法第四百六條ハ幼者ニ飲食物ヲ供給シテ別段ニ其價ヲ高フセス相當ノ代價ヲ受取ルカ爲メニ幼者ヲシテ爲替書ニ其姓名ヲ手署セシメタル珈琲店主ニ適用スルヲヲ得ス（千八百五十六年五月二日トーロース上等裁判所）

刑法ニ於テハ假令ヒ其價格外ニ高シト雖ヒ不動産ヲ幼者ニ賣渡シタル者ヲ處罰セス然レヒ幼者ニ金錢、商品等ノ動産ヲ妄リニ供給シタル者ハ之ヲ處罰ス（カルノ氏）

刑法第四百六條ハ自己ノ利益ノ爲メ幼者ノ無慾ニ乘スル而已ナラス尚ホ他人ノ爲メ故意ヲ以テ幼者ノ損害トナル可キ義務ノ證書ニ其姓名ヲ手署セシムルヲニ干渉シタル者ニ適用ス（千八百六十六年二月二十二日破毀法院）（人ノ姓名ヲ手署シタル白帋ノ妄用）人ノ姓名ヲ手署シタル印刷書ヲ預リ詐僞ヲ以テ之ニ自己ノ利益トナル可キ借入ノ證ヲ記入セシ者ハ人ノ姓名ヲ手署シタル白紙ヲ妄用スルノ罪ヲ犯シタル者トス（千八百二十五年五月十一日破毀法院）委任狀トシテ受取リタル人ノ姓名ヲ手署シタル白紙ニ賣拂ノ證ヲ記入シタル者モ亦仝シ（千八百九年一月二十八日同院）

○處分手續

第一項　背信ノ所爲、時日ヲ經スシテ現行犯ト爲シ得ヘキ時ハ即時ニ其犯人ノ住所及ヒ身体ノ捜索ヲ行フ可

第二項　若シ其捜索ニ由リ竊取シタル物件ヲ見出シタル時ハ其犯人ヲ逮捕シテ検事ノ處分ニ付ス可シ

第三項　若シ背信ノ所爲已ニ數日ヲ經タル時ハ調書ヲ檢事ニ送移シテ其命令ヲ待ツ可シ

○調書ノ文例

千八百何年、何月、何日、余官吏ノ姓名、官職ヲ記ス、ノ面前ニ某氏告訴人ノ姓名、年齢、職業、住所ヲ記ス、ニ出頭シテ左ノ如ク申述シタリ前項諸般ノ場合ニ從ヒ背信ノ所爲ヲ記シ且其犯罪ノ時刻及ヒ景況ヲ記スヘシ

是ニ由テ云々以下前ニ同シ

◎專買原語「アッカパルマン」及ヒ專賣「モノポール」

穀類及ヒ市場ノ部ヲ參照ス可シ

專買トハ商品ヲ稀少ナラシメ然ル後ニ非常ノ高價ヲ以テ之ヲ販賣セントスルノ目的ニテ穀類、穀粉、馬鈴薯等ノ如キ日用必需ノ商品ヲ買ヒ占ムルヲ云フ

○刑法摘要

第四百十九條　故意ヲ以テ公ケニ詐僞或ハ譏誣ノ風評ヲ流布シ又ハ賣主ノ望ム所ノ價ヨリ更ニ貴キ價ヲ附ケ又ハ全種ノ商品ヲ所有スル重立タル者ヲ協議セシメテ共商品ノ販賣ヲ停止セシメ或ハ特ニ定メタル價ニ非サレハ販賣セサラシメ又ハ其他如何ナル方法ヲ論セス僞計ヲ用ヒテ商品、紙幣、國債證票ノ價ヲ貿易ノ自由競爭ニ因リ自然ニ定マル可キ價ヨリ更ニ低昂セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ禁錮ニ處シ且五百法以上一萬法以下ノ罰金ニ處ス可シ

又裁判所ノ言渡ヲ以テ其犯人ヲ二年以上五年以下ノ監視ニ付スルコトヲ得可シ

第四百二十條　若シ穀物及ヒ粗惡ノ穀物又ハ穀粉及ヒ諸般ノ粉ト爲ス可キ物又ハ麵包、葡萄酒及ヒ其他ノ飲料ニ付テ前條ニ記シタル罪ヲ犯セシ者ハ二月以上二年以下ノ禁錮ニ處シ且千法以上二萬法以下ノ罰金ニ處ス可シ

又其犯人ヲ五年以上十年以下ノ監視ニ付スルコトヲ得可シ

第四百二十一條　國債證票ノ相場ノ低昂ニ關シ賭博ヲ爲シタル者ハ第四百十九條ニ記シタル刑ニ處ス可シ

第四百二十二條　國債證票ノ賣拂又ハ引渡ヲ爲ス可キ契約ヲ結ヒシ時ニ當リ自カラ其證票ヲ所有スルノ證ナク又ハ引渡ヲ爲ス可キ時ニ當リ其證票ヲ所有スルノ證ナキ時ハ此等ノ契約ヲ賭博ナリト看做ス可シ

○處分手續

第一項　日用必需ノ消耗品ヲ買ヒ占メテ其價ヲ騰貴セシメタル投機者アルノ告知ヲ受ケタル警察官ハ公衆ノ疑念又ハ物議ヲ證スルニ足ル可キ諸般ノ案據ヲ蒐集シテ明細ニ其旨ヲ檢事並ニ上等行政官ニ報告ス可シ

第二項　若シ警察官其被告人ノ家宅搜索ヲ行フ可キノ命令ヲ受ケタル時ハ買ヒ占メタル商品ト同種ノ商品ヲ賣買スル商人中ヨリ撰ミタル一名ノ鑒定人ヲ立會ハシメテ其商品ノ性質及ヒ數量等ノ證ヲ取ル可シ

第三項　警察官ハ被告人ヨリ商業簿册、賣買覺書及ヒ往

復書狀ヲ展示セシメテ其書類中、被告事件ニ關係アリト思料スル者ヲ押收スル可シ

第四項　該商品ニハ鎖鑰ヲ附シテ之ヲ看守セシム可シ

第五項　警察官ハ其承クル所ノ命令ニ違背スル㆓ナク綿密ニ之ヲ執行ス可シ

第六項　家宅捜索令狀ニ被告人ヲ逮捕スヘキ㆓ヲ記載シタル時ニ非サレハ之ヲ逮捕スル㆓ヲ得ス

○調書ノ文例

千八百何年、何月、何日、余官吏ノ姓名官職住所ヲ記ス何品種類ヲ專買ノ被告事件ニ付キ某官ヨリ領收シタル家宅捜索令狀ヲ執行スル爲メ某氏等ト共ニ被告人某氏其姓名、年齡、產地、職業ヲ記ス ノ住所ニ到リ之ニ家宅捜索令狀ヲ讀ミ聞カセテ其副本ヲ交付シ然ル後ニ先ツ余ト同行シタル公力士一名ヲシテ其商店ニ供用スル室内ヲ看守セシメ商品ヲ貯藏スル場所ニ余ヲ誘引ス可キ旨ヲ被告人ニ命シタリ各室又ハ各庫ニアリタル商品ヲ精細ニ區別シテ記スヘシ

次ニ余其商店ニ供用スル室内ニ立戻リテ商業簿冊、往復書狀其他該事ニ關係アル書類就中賣買覺書ヲ展示スヘキ旨ヲ被告人ニ命シ其展示セサル書類ヲ點檢シ及ヒ其展示セサル者ヲ捜索シテ左ノ書類ヲ押收シタリ

第一　帳簿何冊

第二　書狀何通

家宅捜索令狀ノ限界ハ茲ニ止マルヲ以テ余本書ヲ作リ之ヲ讀ミ聞カセタル後、被告人、保證人、同行者ト共ニ之ニ

姓名ヲ手署シタリ被告人、姓名ヲ手署スルヿヲ肯セサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

◎禍害原語「アクシダン」及ヒ損失原語「アバリー」

禍害ニ數種アリ即チ左ノ如シ

第一　人体ニ關スル禍害

第二　人体ニ關セスト雖モ違警罪ヲ組成シ且要償ノ訴ヲ起ス可キ禍害

第三　民事ノ訴又ハ商事ノ訴ノミヲ起ス可キ禍害

第三項ニ掲クル損害ヲ撿證スルハ治安裁判官ノ職ニシテ司法警察官ノ任ニアラス然レモ急遽ヲ要スル場合ニ於テ被害者ヨリ正當ノ請求ヲ受ケタル警察官ハ調書ヲ作リテ其正本ヲ請求人ニ交付シ之ヲ簿冊ニ登記セシムルヿヲ得

○民法摘要

第千三百八十二條　何事ニ因ラス人ニ損害ヲ加フルノ所行ヲ爲シタル者ハ其償ヲ爲サヽル可ラス

第千三百八十三條　何人ニ限ラス自己ノ所行ニ因リ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可キノ義務アルノミナラス自己ノ懈怠又ハ疎忽ニ因リ人ニ加ヘタル損害モ亦之ヲ償フ可キノ義務アリ

第千三百八十四條　何人ニ限ラス自己ノ所行ニ因リ人ニ加ヘタル損害ヲ償フヘキノ義務アルノミナラス自己ノ引受クヘキ者又ハ自己ノ看守スル物獸類等ヲ云フノ所爲ニ因リ人ニ加ヘタル損害モ亦之ヲ償フ可キノ義務アリ

故ニ父又夫ノ死去シタル後ハ母ヨリ其仝居スル幼年ノ子ノ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可シ

家長及ヒ人ヲ使用スル者ハ其僕婢及ヒ使用ヲ受ケル者ノ其任ヲ受ケタル事ニ付キ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可シ

授業師及ヒ工作者ハ其受業者及ヒ職弟子ノ己レノ監視ヲ受ケル時間ニ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可シ

父及ヒ母又ハ授業師及ヒ工作者ハ其子又ハ弟子ノ人ニ損害ヲ加ヘタル所行ヲ防制スルヿ能ハサルノ證ヲ立ルニ非サレハ上ニ記スル如ク其償ヲ爲ス可キノ責ヲ免ルヽヿヲ得ス

第千三百八十五條　獸類ノ所有者又ハ獸類ヲ使用スル者ハ之ヲ使用スル時間ニ其獸類ヲ看守シタルト其徘徊又ハ逃逸シタルトヲ問ハス其獸類ノ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可シ

第千三百八十六條　家屋ノ所有者ハ之ヲ修理スルヿヲ怠リタルニ因リ又ハ之ヲ建造スル法ノ不良ナルニ因リ其家屋ノ崩潰シテ人ニ加ヘタル損害ヲ償フ可シ

○刑法摘要

第三百十九條　疎忽疎虞懈怠又ハ規則ヲ循守セサルニ因リ故意ニ非スシテ人ヲ殺害シ又ハ人ヲ殺害スルノ原由ヲ爲シタル者ハ三月以上二年以下ノ禁錮ニ處シ且五十法以上六百法以下ノ罰金ニ處ス可シ

第三百二十條　疎忽又ハ疎虞ニ因リ人ヲ創傷シ又ハ毆擊シタル時ハ其犯人ヲ六月以上二年以下ノ禁錮ニ處シ且十六法以上百法以下ノ罰金ニ處ス可シ又ハ兩刑中ノ一ニ處ス可シ

○商法摘要

第九十八條　水陸ノ運送取扱人ハ其取扱フ商品及ヒ手形ノ破損又ハ滅盡シタルニ當リ其責ニ任ス可シ但其運送狀ニ之レニ

反シタル契約ヲ記シタル時又ハ抗拒ス可ラサル力ニ因リ破損又ハ滅盡シタル時ハ格別ナリトス

第百三條　運送人ハ其運送スル物件ノ滅盡シタルニ當リ其責ニ任ス可シ但抗拒ス可ラサル力ニ因リ滅盡シタル時ハ格別ナリトス

又運送人ハ其運送スル物件ノ破損シタルニ當リ其責ニ任ス可シ但其物件ノ質不良ナルニ因リ又ハ抗拒ス可ラサル力ニ因リ破損シタル時ハ格別ナリトス

第百五條　商品ノ受取人之ヲ受取リ且其運賃ヲ拂フタル上ハ運送人ニ對シテ訴ヲ起スコトヲ得ス

第百六條　商品ノ受取人之ヲ受取ルコトヲ肯セス又ハ之ヲ受取ルニ付キ爭ノ生シタル時ハ鑑定人ヲシテ其商品ノ模樣ヲ檢視セシム可キコトヲ商法裁判所ノ上席人ニ出願シ又商法裁判所アラサル時ハ治安裁判官ニ出願シ其上席人又ハ裁判官ハ其願書ノ末ニ其願ヲ允許スル旨ヲ記シテ鑑定人ヲ任シ其鑑定人ハ其商品ノ摸樣ヲ檢視シテ之ヲ證ス可シ

又其爭ニ係ル商品ハ先ツ之ヲ人ニ預ケ置キ次ニ公ケノ倉庫ニ入ル可キコトヲ言渡スヲ得可シ

然ル上ニテ運賃ノ高ニ充ルマテ運送人ノ爲メ其商品ヲ賣拂フ可キノ言渡ヲ爲スコトヲ得可シ

第百七條　本卷ニ記ズル所ノ規則ハ運送ノ船主及ヒ車主ニ通シ用フ可シ

第百八條　商品ノ滅盡シ又ハ破損シタルニ因リ其取扱人及ヒ運送人ニ對シテ爲ス可キ訴ハ佛蘭西國内ノ運送ニ付テハ六月ヲ

以テ期滿得免ノ期限トシ又外國ヘノ運送ニ付テハ一年ヲ以テ期滿得免ノ期限トス此等ノ期限ハ商品ノ滅盡シタル場合ニ於テハ其運送ヲ爲シ終ル可キ期日ヨリ起算シ又其破損シタル場合ニ於テハ之ヲ引渡シタル日ヨリ起算ス可シ但取扱人又ハ運送人ニ詐僞又ハ不正ノ所爲アル時ハ此例ニ在ラス

○千七百八十九年十二月二十二日公布ノ法律摘要

第五十條　邑官ノ本務ハ行政議會（今ハ州長及ヒ郡長）ノ監督ヲ受ケテ管下住民ニ善良ナル警察ノ利益就中街巷、公場、公舍ニ於テ潔清、健康、靜平、安寧ヲ享受セシムルニ在リトス

○千七百九十年八月二十四日公布ノ法律摘要

第三條　邑官ニ指揮監督ヲ委任シタル警察事項ハ左ノ如シ

一　街衢、埠頭、廣場、公路ニ於ケル通行ノ安寧及ヒ便利ニ關スル事

二　崩壞ノ虞アル建物ヲ取崩シ又ハ修繕スル事○墜落シテ損害ヲ生ス可キ物ヲ家屋ノ窓牖又ハ其他ノ所ニ載置スルヲ禁スル事○通行人ヲ損傷シ又ハ汚瀆ス可キ物ヲ拋擲スルヲ禁スル事

五　火災、傳染病等ノ如キ災厄ヲ適宜ノ準備ヲ施シテ未發ニ防キ及ヒ必需ノ救助ヲ分配シテ之ヲ已發ニ制スル事

六　瘋癲又ハ白痴ヲ徘徊セシメ及ヒ猛獸ヲ放逸セシムルヨリ生シ得ヘキ禍害ヲ豫防シ及ヒ鎭制スル事

刑法第四百七十五條ノ第十二項ハ禍害ノ發シタル場合ニ於テ人ヨリ求メヲ受ケ已ムヲ得サルニ非スシテ助ヲ爲スコトヲ肯セサリシ者ヲ處罰ス又其第四百七十九條ハ其第二、三、四ノ三項ニ記シタ

ル諸種ノ禍害ヲ惹起シタル者ヲ處罰ス

公路ノ安寧ニ關シ邑官ニ於テ特ニ注意ス可キ事項ハ左ノ如シ

一　馬匹、駄獸、車輛ノ通行及ヒ牽引

二　建築、取崩又ハ崩壞ノ虞アル建物ノ爲メ其請負人ニ命ス可キ義務

三　墜落シ又ハ拋擲シテ人ヲ損傷シ又ハ汚瀆スルノ虞アル物品ノ取扱ニ付キ施ス可キ準備

四　公路ニ設ケル窖口及ヒ風窓

五　銃砲及ヒ煙火ノ發射幷ニ火藥ノ使用及ヒ爆發物ノ製造

六　危險ノ事ニ使用スルヿヲ得可キ器具物件ノ遺棄

七　猛獸ノ放逸

○處分手續

第一項　禍害ノ發シタル報知ヲ受ケタル警察官ハ即時ニ其場所ニ到ル可シ

第二項　若シ其禍害ノ違警罪ニ係ル時ハ先ツ犯人ノ姓名、職業、住所、次ニ馬車ノ標板ニ記スル番號等ヲ書取ル可シ

第三項　若シ其馬車ニ標板ヲ附セス又ハ其標板ノ文字讀ミ難キ時ハ訴訟費及ヒ罰金ノ豫算額ヲ官署ニ預クルニ至ルマテ之ヲ遺失物留置場ニ留メ置ク可シ

第四項　若シ其馬車ニ貨物ヲ積載シタル時ハ損害ヲ擔當セシムル爲メ速ニ其差出人又ハ其受取人ニ報知シ然ル後ニ其運搬ヲ運滯セシメサル爲メ直ヲニ馬車ヲ解放ス可シ

第五項　他人ニ損害ヲ加ヘタル時ハ鑑定人ヲシテ其損害ヲ證明セシメ民事原告人トナリテ要償ノ訴ヲ起スヿヲ得セシムル爲メニ其被害者ノ姓名、住所、職業ヲ調書ニ記載ス可シ

第六項　人体ニ關スル禍害ノ發シタル時ハ其負傷者及ヒ證人ノ姓名、年齢、職業、住所ヲ書取リ負傷者ニ一時ノ手當ヲ加ヘタル後ニ之ヲ其住所又ハ病院ニ送致ス可シ若シ其死去シタル場合ニ於テハ其死屍ヲ死人置場ニ送致シ醫師ヲ招キテ其模様ヲ證明セシメ且其衣服ノ品色ヲ明記シ及ヒ其何人タルヲ知ルカ爲メニ衣袋（カヾ）内ヲ捜索スヘシ

第七項　禍害重大ナル時ハ其犯人ヲ捕縛シテ撿事ノ處分ニ付ス可シ

○調書ノ文例

千八百何年、何月、何日、余（官吏ノ姓名、官職、住所ヲ記ス）ハ何地（場所ヲ記ス）ニ於テ禍害發シタルニ因リ即時ニ某氏等（證人又ハ同行人ヲ記ス）ヲ伴フテ其場ニ到リ左ノ件々ヲ目撃セリ（禍害及ヒ其景況ヲ記ス可シ）

是ニ由テ余本書ヲ作リ之ヲ朗讀シタル後ニ告訴人及ヒ證人ヲシテ之レニ其姓名ヲ手署セシメタリ

◎姦通（原語「アジュルテール」）

第一項　姦通ノ罪ハ夫又ハ婦ヨリ正當ノ告訴狀ヲ差出シタル上ニ非サレハ公訴スルヿヲ得ス

第二項　姦通ノ事ニ於テハ夫婦同居ノ家ニ妾ヲ置クニ非サ

第三項　夫ノ姦通ハ其夫婦同居ノ家ニ妾ヲ置ク

レハ婦ヨリ起訴スルヲ得ス

第四項　婦ノ姦通ハ其夫婦同居ノ家ニ於テ之ヲ行フタルト他所ニ於テ之ヲ行フタルトヲ論セス夫ヨリ起訴スルヲ得

第五項　姦通シタル婦ハ禁錮ニ處スルト雖モ姦通シタル夫ハ罰金ニ處スルニ限ル

第六項　姦婦ノ從犯姦夫ハ姦婦ト同期ノ禁錮ニ處ス

第七項　現行犯罪又ハ姦夫ノ手書シタル書狀及ヒ書類アルニ非サレハ姦夫ニ其罪アリト爲スヲ得ス

第八項　夫ハ裁判宣告ノ前ニ於テ其婦ヲ再ヒ引取ルヲヲ承諾シテ其告訴ヲ取消スヲ得

第九項　檢證セラレ且裁決セラレタル姦通ハ夫婦ノ別居及ヒ財産分離ノ原由ト爲スヲヲ得

○民法摘要

第二百二十九條　夫ハ其婦ノ姦通ヲ原由トシ離婚ヲ訴求スルヲヲ得可シ

第二百三十條　婦ハ夫ノ其共通ノ家ニ妾ヲ置キタル時其夫ノ姦通ヲ原由トシ離婚ヲ訴求スルヲヲ得可シ

第三百六條　定リタル原由ノ爲メニ離婚ノ訴求ヲ起ス可キ場合ニ於テハ夫又ハ婦ヨリ別居ノ訴求ヲ爲スヲヲ得可シ

第三百七條　別居ノ訴求ハ總テ其他ノ民事上ノ訴訟ト仝一ノ方法ヲ以テ之ヲ起シ之ヲ審理シ之ヲ裁判ス可シ但別居ノ訴求ハ夫婦相互ノ承諾ヲ以テ之ヲ爲スヲヲ得ス

第三百八條　姦通ノ原由ノ爲メニ別居ノ宣告ヲ受ケタル婦ハ檢

察官ノ請求ニ依リ有ト同一ノ裁判ヲ以テ三月以上二年以下ノ定期間懲治場内ニ拘留セラルヽノ言渡ヲ受ク可シ

第三百九條　夫ハ其婦ヲ再ヒ引取ルコトヲ承諾シテ其言渡ノ効ヲ止ムルコトヲ得可シ

第三百十一條　夫婦ノ別居ハ必ス常ニ其財産ノ分離ヲ惹起ス可シ

○刑法摘要

第三百二十四條　夫ノ其婦ヲ故殺シ又ハ婦ノ其夫ヲ故殺スル罪ハ其故殺ヲ行フタル夫又ハ婦ノ生命其故殺ヲ爲シタル時ニ當リテ危險ニ迫リシコトナキニ於テハ宥恕ス可ラサル者トス

然レトモ第三百三十六條ニ定メタル姦通ノ場合ニ於テ夫其夫婦同居ノ家ニ於テ婦及ヒ其從犯ノ現行犯罪ノ時ニ當リ婦並ニ其從犯ヲ故殺シタル時ハ其罪ヲ宥恕ス可シ

第三百三十六條　婦ノ姦通ハ其夫ニ非サレハ之ヲ訴フルコトヲ得ス但第三百三十九條ニ記スル場合ニ於テハ夫ハ其婦ノ姦通ヲ訴フルノ權ヲ失フ可シ

第三百三十七條　姦通ノ證アル婦ハ三月以上二年以下ノ禁錮ニ處ス可シ

第三百三十八條　姦通シタル婦ノ從犯ハ右ト仝期ノ禁錮ニ處シ且百法以上二千法以下ノ罰金ニ處ス可シ

其從犯タルコトヲ訴ヘラレタル被告人ニ對シテ申立ツルコトヲ許スヲ得可キ證據ハ現行犯罪ノ外其被告人ノ記シタル書狀及ヒ其他ノ證據物ヨリ生スル者ノミニ限ル可シ

第三百三十九條　夫其夫婦同居ノ家ニ妾ヲ置キ其婦ノ告訴ニ依

リ其罪證發覺シタル時ハ百法以上二千法以下ノ罰金ニ處ス可シ

○斷案

（姦通罪ノ性質）姦通ノ罪ヲ組織スルニハ必ス三個ノ景況ヲ具備セサル可ラス第一男女其情慾ヲ遂ケタル事第二男女ノ中一名既ニ結婚シタル事第三結婚シタル者ニ詐僞ノ所爲アル事即チ是ナリ故ニ男女ノ交際如何ニ親密ナリト雖ヒ其情慾ヲ滿足セシメタルノ證左アルニ非サレハ姦通ヲ以テ論スルヲ得ス（フウル子ール氏姦通論）

（公訴）檢察官ハ假令ヒ公然タル猥褻ノ所爲アル塲合ト雖ヒ姦通シタル婦ニ對シ職權ヲ以テ公訴ヲ起スヲ得ス然レヒ本夫ヨリ其婦ノ姦通ヲ告訴シタル時ハ本夫ノ干渉ヲ受ケスシテ公訴ヲ起スヲ得可シ（千八百三十二年三月十日破毀法院）

（夫婦同居ノ家並ニ現行犯罪）夫婦同居ノ家ハ夫ノ住居スル家ニシテ即チ婦ノ法ニ適シタル住所ナリ故ニ夫其家ニ妾ヲ置キタルカ爲メニ其婦ヨリ爲シタル告訴ハ假令ヒ其婦現ニ夫ノ家ニ住セサリシ時ト雖ヒ受理スルヲ得可シ（千八百二十一年五月九日破毀法院）

刑法第三百三十八條ニ據レハ必スシモ犯人（姦夫姦婦）ノ現ニ其犯罪ヲ成シ遂ケルノ時ニ於テ目擊セラレタルヲ要セスト雖ヒ少クモ其犯罪ヲ成シ遂ケタリト推定ス可キ景況ヲ目擊セラレタルヲ必要トス故ニ他ニ嫁シタル婦人ノ室内ニ數夜寢宿シ又ハ之レト仝室ニ籠居スル所ヲ目擊セラレタル如キハ姦通ノ從犯ニ對シ刑法第三百三十八條ニ記スル現行犯罪ト爲スヲ得ス（千八百三十四年八月二十三日同院）

夫婦同居ノ家ニ妾ヲ置キタル夫ノ婦ハ妾ノ夫ヨリ爲ス處ノ故障

申述ニ拘ラス夫ヲ主犯トシ妾ヲ從犯トシテ其姦通ヲ告訴スルノ專權ヲ有スト可シ（千八百六十八年二月廿八日同院）

（從犯）檢察官ハ夫ヨリ其婦ノ姦通ヲ告訴シタル時ハ假令ヒ其告訴狀ニ從犯姦夫ヲ指定セサル時ト雖ヒ之ヲ探偵シ及ヒ之ヲ公訴スルノ權アル可シ（千八百二十九年十月十七日同院）

姦夫ハ姦婦ノ其本夫ヨリ告訴セラレタルトキニ非サレハ公訴セラルヽコトヲ得ス故ニ本夫ニ於テ其告訴ヲ取消シタルニ因リ又ハ夫婦和解シタルニ因リ姦婦ニ對スルノ公訴ヲ中止シタル時ハ姦夫ニ對スルノ公訴モ亦從ツテ中止セサル可ラス

○調書ノ文例

著者曰ク此等ノ檢證ニ於テハ注意ニ注意ヲ加ヘテ預メ檢事ノ敎示ヲ仰クヲ緊要トス

千八百何年何月何日、余官吏ノ姓名、官職、住所ヲ記ス面前ニ某氏出頭人ノ姓名、年齡、職業、住所ヲ記ス出頭シ其婦某婦ノ姓名、年齡ヲ記ス誰某姦夫ノ姓名、職業、住所ヲ記ス ト姦通スルノ確證ヲ得タル旨ヲ申述セリ

（告訴人ノ申述ヲ書取リテ姦通ヲ爲シ始メタル時限ト之ヲ爲シタル場所トヲ記ス可シ）

本人余ニ姦通ノ場所ニ到リ其面前ニ於テ檢證スヘキヲ請求シ其請求書ニ姓名ヲ手署シタリ

故ニ余午前又ハ午後第何時、某等同行人ヲ記ス ト共ニ某地場所ヲ記ス ニ到リ其指示セラレタル房室ノ戸ヲ敲キテ之ヲ開發セシメタルニ又ハ鎗工某氏ヲ招キテ其誰某姦夫ニ戸ヲ開發セシメタルニ誰某姦夫婦某姦婦ト共ニ同床ノ上ニアルヲ發見シ左ニ揭クル件々ヲ目擊シタリ衣類及ヒ臥床ノ錯雜セル模樣ヲ記ス

余先ツ姦夫某ヲ糺訊シタルニ左ノ如ク答述セリ其答ヲ記ス

余次ニ姦婦某ヲ糺問シタルニ左ノ如ク答述セリ其答ヲ記ス

余又某氏房室ヲ貸シ又ハ借ル者ヲ糺問シタルニ左ノ如ク答述セリ其答ヲ記ス

（其家屋内ニアル者及ヒ其隣人ニ至ルマテ悉ク糺問ス可シ）

（室内ニ備フル家具中又ハ被告人ノ身體ニ藏スル書翰及ヒ書類ヲ捜索ス可シ）

夫ノ請求ニ依リ余其姦婦ヲ捕縛シテ撿事ノ處分ニ付シタリ

姦夫某氏ニ在テハ身分アル者ナルヲ以テ召喚ヲ受クルニアレハ何時タリトモ出頭ス可キノ約束ヲ爲シ假リニ之ヲ放釋セリ

是ニ由テ余本書ヲ作リ之ヲ朗讀シタル後ニ某氏等ヲシテ之ニ其姓名ヲ手署セシメタリ（手署スルヲ肯セサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ）

（若シ其告訴、夫ニ對シテ婦ヨリ爲シタル時ハ左ノ如ク記ス可シ）

婦某、余ニ其夫某、夫婦同居ノ家ニ於テ（告訴人其家ニ住居スルヿ又ハ強テ其家ヲ退去シサレ或ハ好テ其家ヲ退去シタルヿ及ヒ其時日ヲ記ス）女某（其姓名、職業、住所ヲ記ス）ト現ニ姦通ヲ爲シ居ル旨ヲ申述タリ

本人余ニ其家ニ到リテ撿證ス可キヿヲ請求シ且其請求書ニ姓名ヲ手署シタリ

故ニ余云々（以下前ニ同シ）

◎公示書（原語「アッヒーズ」）

掲示書、出版ノ部ヲ參照ス可シ

公示書トハ或ル事件ヲ公告スルカ爲メニ印刷シ又ハ手

書シテ貼附スル所ノ書類ヲ云フ

第一項　著作者又ハ印刷人ノ姓名、職業、住所ヲ眞正ニ記セサル書籍、文書、廣告書、貼附書、新聞紙又ハ其他ノ印刷物ヲ發行シ或ハ分配スルハ輕罪タリ

第二項　其正犯ヲ知ラシメタル者ニ對シテハ其刑ヲ違警ノ刑ニ減輕スルコトヲ得

第三項　風俗ヲ紊亂スル歌謠、冊子、繪畵、肖像ヲ展示シ又ハ分配スルハ輕罪タリ

第四項　其正犯ヲ知ラシメタル者ニ對シテハ其刑ヲ違警ノ刑ニ減輕スルコトヲ得

第五項　凡ソ皇帝ノ身体ニ對シ公ケニ爲シタル不敬ハ重罪タリ

第六項　政府又ハ帝位嗣繼ノ順序ヲ亡滅シ又ハ之ヲ變更スルノ目的ヲ以テ爲シタル亂害ハ重罪タリ

第七項　皇帝ノ威力ニ對シ兵器ヲ弄セシムルノ目的ヲ以テ國士又ハ人民ヲ教唆スルハ重罪タリ

第八項　國士又ハ人民ヲシテ互ニ兵器ヲ弄シ内亂ヲ起サシメント教唆シ若クハ一邑又ハ數邑ニ於テ亂暴、劫掠ヲ爲サシメント教唆スルハ重罪タリ

○刑法摘要

第八十六條　皇帝ノ生命ニ對シ又ハ其身體ニ對シテ亂害ヲ爲シタル者ハ尊屬親ヲ殺害スル刑ニ處ス可シ

皇族各員ノ生命ニ對シテ亂害ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス可シ

皇族各員ノ身體ニ對シテ亂害ヲ爲シタル者ハ城塞内ニ於ケル

流刑ニ處ス可シ

凡ソ皇帝ノ身體ニ對シテ公ケニ不敬ヲ爲シタル者ハ六月以上五年以下ノ禁錮ト五百法以上一万法以下ノ罰金トニ處ス可シ

○其犯罪人ニハ右ノ外其言渡サレタル禁錮ノ期限ニ等シキ期限間第四十二條ニ記シタル權利ノ全部又ハ一部ヲ禁止スルヿヲ得可シ○其期限ハ犯罪人ノ其刑ヲ受ケ終リシ日ヨリ起算スル者トス

凡ソ皇族ニ對シ公ケニ不敬ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ禁錮ト百法以上五千法以下ノ罰金トニ處ス可シ

第八十七條　政府又ハ帝位嗣繼ノ順序ヲ亡滅シ又ハ之ヲ變更シ若クハ國土又ハ人民ヲ挑唆シテ皇帝ノ威力ニ對シ兵器ヲ弄セシムルヲ以テ目的トシ亂害ヲ爲シタル者ハ城塞内ニ於ケル流

刑ニ處ス可シ

第八十八條　執行又ハ謀試ノミヲ以テ亂害ト爲ス可キ者トス

第八十九條　第八十六條及ヒ第八十七條ニ記シタル重罪ヲ目的トシテ陰謀ヲ企テタル者其執行ヲ豫備スル爲メニ一個ノ所爲ヲ行ヒ又ハ一個ノ所爲ヲ始メタル時ハ流刑ニ處ス可シ

若シ其陰謀ヲ豫備スル爲メニ何等ノ所爲モ行ハス又何等ノ所爲ヲモ始メサル時ハ禁獄ニ處ス可シ

二人又ハ數人ノ間ニ於テ事ヲ行フノ決心ヲ共議固定シタル時ハ陰謀アリトス

若シ第八十六條及ヒ第八十七條ニ記シタル重罪ヲ行フ爲メノ陰謀ヲ爲サントスルノ發議アリテ其發議ノ承引セラレサル時ハ其發議者ヲ一年以上五年以下ノ禁錮ニ處ス可シ○其犯罪人

ニハ右ノ外第四十二條ニ記シタル權利ノ全部又ハ一部ヲ禁止スルコトヲ得可シ

第九十條　若シ一人ニテ第八十六條ニ記シタル重罪中ノ一個ヲ行ハントスルノ決心ヲ爲シ他人ノ助ヲ受ケス其者一人ニテ其執行ヲ豫備スル爲メノ所爲ヲ行ヒ又ハ之ヲ始メタル時ハ禁獄ニ處ス可シ

第二百八十三條　凡ソ著作者又ハ印刷者ノ眞正ノ姓名、職業、住所ヲ記サヽル書籍、文章、廣告書、貼附書、新聞紙、定時刊行書又ハ其他ノ印刷物ヲ公布シ又ハ分配シタル時ニ情ヲ知リテ其公布又ハ分配ニ助力セシ者ハ其所爲ノミノ爲メ六日以上六月以下ノ禁錮ニ處ス可シ

第二百八十四條　左ニ記列スル各人ニ關シテハ其刑ヲ違警ノ刑ニ減輕ス可シ

第一　其印刷シタル文書ヲ附與セシ者ヲ知ラシメタル呼賣人、貼附者、賣捌人又ハ分配者

第二　何人ニ限ラス印刷者ヲ知ラシメタル者

第三　印刷者ト雖モ著作者ヲ知ラシメタル者

第二百八十五條　若シ印刷シタル文書ニ重罪又ハ輕罪ヲ敎唆スルノ文意ヲ含ミタルトキハ其呼賣人、貼附者、賣捌人及ヒ分配者ヲ其敎唆者ノ從犯トシテ處刑ス可シ但其呼賣人、貼附者、賣捌人、分配者ニ於テ其文書ヲ附與セシ者ヲ知ラシメタル時ハ格別ナリトス

其文書ヲ附與セシ者ヲ漏告シタル時ハ右ノ各人ヲ六日以上三月以下ノ禁錮ノミニ處ス可シ而シテ從犯ノ刑ハ其印刷シタル

文書ヲ附與セシ者ヲ知ラシメサル各人及ヒ印刷者ノ知レタル時ハ其印刷者ノミニ適用スルニ限ル可シ

第二百八十六條　前數條ニ記シタル總テノ場合ニ於テハ其差押ヘタル印本ヲ沒收ス可シ

第二百八十七條　善良ノ風儀ヲ害スル歌謠、小冊、繪畫、肖像ヲ展示シ又ハ分配セシ者ハ十六法以上五百法以下ノ罰金ト一月以上一年以下ノ禁錮トニ處シ且其歌謠、繪畫又ハ其他ノ物ヲ印刷シ或ハ彫刻シタル印版及ヒ印本ヲ沒收ス可シ

第二百八十八條　左ニ記列スル各人ニ關シテハ前條ニ定メタル禁錮及ヒ罰金ノ刑ヲ違警ノ刑ニ減輕ス可シ

第一　犯罪ノ物件ヲ己レニ附與セシ者ヲ知ラシメタル呼賣人、賣捌人又ハ分配者

第二　何人ニ限ラス印刷者又ハ彫刻者ヲ知ラシメタル者

第三　印刷者又ハ彫刻者ト雖ヒ著作者又ハ其印刷或ハ彫刻ヲ己レニ委託セシ者ヲ知ラシメタル者

第二百八十九條　本節ニ明記シタル何レノ場合ニ於テモ其正犯ノ知レタル時ハ之ヲ其種類ノ輕罪ニ付シタル刑ノ最上限ニ處ス可シ

○第一　官衙ノ公示書

官衙ノ公示書トハ法律、法令、決定書、規則書、宣告書及ヒ其他各官廳ノ書類ヲ公告スルカ爲メ政府又ハ官廳ノ命令ヲ以テ貼附スル者ヲ云フ

○千七百九十一年五月二十八日公布ノ法律摘要

官衙ヨリ發スル公示書ニ限リ通常ノ白紙ニ印刷ス可シ

○千七百九十一年五月二十日公布ノ法律摘要

第十一條　各府及ヒ各邑ニ於テハ邑官ニ於テ法律又ハ官衙ノ廉告書ヲ貼附ス可キ場所ヲ定ム可シ

○共和六年風月九日公布ノ法律摘要

第五十六條　種類ノ如何ヲ問ハス官衙ヨリ發セサル各公示書ハ必ス廣告界紙ニ印刷ス可シ但農業共進會ノ公示書及ヒ官准ヲ經タル雙互救護會社ノ公示書ハ官衙ノ公示書ト等シク廣告界紙ニ印刷スルニ及ハス

○第二　平人ノ公示書

平人ノ公示書トハ動產不動產ノ賣貸、工商業ノ開業、出版書ノ賣弘メ、劇場、觀場、寄席ノ興行等ヲ廣告スルカ爲メニ貼附スルモノヲ云フ

○千七百九十一年七月二十八日公布ノ法律摘要

平人ノ公示書ハ白紙ニ印刷スルヲ得ス

○千八百十六年四月二十八日公布ノ法律摘要

第六十五條　目的ノ如何ヲ問ハス凡ソ平人ノ公示書ハ決シテ白紙ヲ用フルヲ得ス必ス廣告界紙ニ印刷ス可シ

○千八百十七年三月二十五日公布ノ法律摘要

第七十七條ノ第二項　平人ノ公示書ニ白紙ヲ用フルヲ禁シタル千八百十六年四月二十八日ノ法律第六十五條ニ違背シタル印刷人ハ百法ノ罰金ニ處ス可シ

○千八百十八年五月十五日公布ノ法律摘要

第七十六條　然レトモ平人ノ公示書ニ白紙ヲ用フルヲ禁シ此禁ヲ犯シタル印刷人ヲ百法ノ罰金ニ處スルヲ定メタル千八百

十七年三月二十五日ノ法律第七十七條ノ制規ハ從前ノ通リ之ヲ執行ス可シ

○千八百六十六年三月七日ノ行政裁定

平人ノ公示書ニ白紙ヲ用フルノ制禁ハ印刷シタル公示書ノミニ適用スルニ限レリ而シテ此制禁ヲ犯シタル場合ニ於テハ千八百十六年八月二十八日ノ法律第六十五條ト千八百十七年五月二十五日ノ法律第七十七條トニ從ヒ其印刷人ノミヲ罰金ニ處スルニ止レリ故ニ手書スル所ノ公示書ニハ白紙ヲ用フルモ妨ケナシトス

○千八百九十一年五月二十日公布ノ法律摘要

第十一條ノ第二項　何人タリトモ法律ノ公示書ヲ貼附ス可キ場所ニ平人ノ公示書ヲ貼附セシメルルコトヲ得ス此規則ヲ犯セシ者ハ百法ノ罰金ニ處ス可シ

○第三　政治ニ關スル新聞又ハ論說ヲ記シタル書類ヲ貼附スルノ禁

○千八百三十年十二月十日公布ノ法律摘要

第一條　印刷シタルト手書シタルト彫刻シタルト石摺ナルトヲ問ハス凡ソ政事ニ關スル新聞又ハ論說ヲ記シタル書類ハ街衢、廣場及ヒ其他ノ公場ニ貼附シ又ハ掲示スルコトヲ得ス但官衙ヨリ發スル書類ハ此限ニ在ラス

第五條　第一條ノ制規ヲ犯シタル者ハ二十五法以上五百法以下ノ罰金ト六日以上一月以下ノ禁錮トニ處ス可シ但其場合ニ因リ兩刑中ノ一ニ處スルコトヲ得可シ

本條ニ定ムル所ノ刑ト書類ノ性質ヨリ生スル重輕罪ノ爲メニ

適用シ得可キ刑ト相觸ルヽコトナカル可シ

○第四　廣告界紙

○共和六年風月九日公布ノ法律摘要

第五十六條　種類ノ如何ヲ問ハス官衙ヨリ發セサル各公示書ハ廣告界紙ニ印刷ス可シ

○千八百十六年四月二十八日公布ノ法律摘要

第六十五條　目的ノ如何ヲ問ハス凡ソ平人ノ公示書ハ必ス廣告界紙ニ印刷ス可シ

第六十九條

第二項　廣告界紙ニ印刷セサル公示書ヲ貼附セシメタルノ證アル者ハ百法ノ罰金ニ處ス可シ（千八百二十四年六月十日ノ法律第十條ハ此罰金ヲ二十法ニ減セリ）

第三項　右ニ記シタル罰金ノ外ニ其貼附者ヲ刑法第四百七十四條ニ定メタル違警ノ刑ニ處ス可シ

○斷案

千八百十六年四月二十八日ノ法律第六十九條ノ第三項ハ貼附者ヲ違警ノ刑ニ處スルコトヲ定メタル迄ニシテ之レニ其第二項ノ罰金ヲ併科スルノ意味ヲ含有セス故ニ第三項ヲ以テ前項ト關係ノ意味ヲ有スルモノト見解ヲ下ス可ラス（千八百二十九年四月十六日破毀法院）

家屋ノ外部ニ貼附スル公示書ト其内部ニ貼附スル公示書ノ間ニハ區別アラサルヲ以テ家屋ノ内部ニ貼附スル公示書ト雖モ亦必ス廣告界紙ニ印刷セサル可ラス故ニ屋内ノ公示書（アッピース、ダンテリオール）ト記載スルモ廣告界紙ニ印刷セサル公示書ヲ交付シタル印刷人ハ其故意ニ出テサル時ト雖モ五十法ノ罰金ニ處セラル可ク而シテ此公示書ヲ店

內ニ貼附シタル商人モ亦二十法ノ罰金ニ處セラルヽノミナラス尚ホ其印刷人ノ科セラレタル罰金ヲ共擔セサル可ラス（千八百六十七年一月二十三日同上）

諸會社及ヒ州邑ノ如キハ必竟スルニ特別ノ資產ヲ所有スル一個人タルニ過キサルナリ故ニ博覽會、共進會等ノ諸會社、病院、慈惠院等ノ諸公舍及ヒ州邑ノ財產ノ管理、工事ノ執行又ハ其他ノ起業ニ關スル公示書ハ假令ヒ行政官（州長又ハ邑長）ノ檢署ヲ受ケタル時ト雖モ亦必ス染色シタル廣告界紙ニ印刷セサル可ラス但農業共進會ノ公示書並ニ官准ヲ經タル雙互救護會社ノ公示書ハ此限ニ在ラス

（千八百六十六年三月廿四日大藏省ノ裁定）

○千八百六十六年七月十八日公布ノ會計法（摘要）

第四條　公示書ノ印紙稅ハ左ノ如ク定ム

紙幅四方十二「デシメートル」半以下五撒（サンチーム）一撒ハ一法ノ百分ノ一ニシテ一法ハ一邦（本邦ノ二十錢ニ當ル）

仝　四方十二「デシメートル」半以上二十五「デシメートル」以下十撒

仝　四方二十五「デシメートル」以上五十「デシメートル」以下十五撒

仝　四方五十「デシメートル」以上二十撒

一葉ノ公示書ニ種類ノ異リタル數個ノ廣告文ヲ記載スル時ハ右ニ記シタル最高額ノ印紙稅ヲ課シ又五個以上ノ廣告文ヲ記載スル時ハ最高額ニ倍スル印紙稅ヲ課ス可シ

凡ソ公示書ハ之ヲ貼附スル前ニ印紙（ヌンプル、セヒール）ヲ貼用スルニ於テハ無界（タン）紙ニ印刷スルモ妨ケナシ

○千八百七十一年ノ豫算ニ關スル千八百七十年七月三十日公布ノ法律摘要

第六條

第二項　幅員稅ヲ課スル可キ公示書ノ印刷用紙ニモ亦印紙（タンブル・モヒール）ヲ貼用スルノ體裁及ヒ約款ハ行政定規ヲ以テ定ム可シ（後ニ掲クル千八百七十二年十二月二十一日ノ敕書ヲ參照スヘシ）

第三項　印紙ヲ貼用スルノ體裁及ヒ約款ハ行政定規ヲ以テ定ム可シ

第四項　此印紙ニハ千八百五十九年六月十一日ノ法律第二十條及ヒ第二十一條ノ罰則ヲ適用ス可シ

○千八百七十二年十二月二十一日公布ノ敕書

第一條　千八百七十年七月三十日ノ法律ヲ執行スルカ爲メニ別紙雛形ニ從ヒ五撒、十撒、二十撒ノ印紙ヲ設ク

第二條　印紙ハ印刷人ニ於テ之ヲ貼付シ其責ニ任ス可シ

此印紙ハ公示書ノ本文ノ外更ニ二線ヲ增刷シテ塗抹シ得ルノ方法ヲ以テ之ヲ貼付ス可シ

文字ノ位置ニ因リ前項ノ方法ヲ以テ塗抹スルヿ能ハサル時ハ印刷人ノ姓名又ハ商家ノ屋號幷ニ塗抹ノ日子ヲ彫リ且油墨ヲ塗リタル印形ヲ印紙ノ上ニ押捺シテ之ヲ塗抹ス可シ

第三條　登記、公領兼印紙局ハ上等裁判所及ヒ下等裁判所ニ印紙ノ摸型ヲ送付ス可シ但摸型ノ送付ハ無費ニテ造リタル調書ヲ以テ之ヲ證明スル者トス

○第五　繪書ヲ記シタル公示書

○千八百五十二年七月八日公布ノ法律摘要

第三十條　繪畫又ハ其他ノ方法ヲ以テ公場、壁面、建物若シクハ屋上

ニ記載スル各公示書ノ貼附税ハ四方一「メートル」以下ノ公示書ニ付テハ五十撒及七四方一「メートル」以上ノ公示書ニ付テハ一法ト定メ來ル千八百五十二年八月一日ヨリ之ヲ徴收スヘシ

本條ノ執行規則ハ行政定規ヲ以テ定ムヘシ

本條幷ニ本條ノ執行規則ニ違背シタル者ハ百法以上五百法以下ノ罰金ト刑法第三百六十四條ニ記シタル刑トニ處スルヲヲ得ヘシ

○千八百五十二年七月八日ノ法律第三十條ノ執行規則ヲ制定シタル千八百五十二年八月二十五日公布ノ敕書

第一條　凡ソ給書又ハ其他ノ方法ヲ以テ公場、壁面、建物若シハ屋上ニ公示書ヲ記載セント欲スル者ハ千八百五十二年七月八日ノ法律第三十條ニ定メタル貼附税ヲ豫納シ且州ニ於テハ邑長ニ又巴里府ニ於テハ警察令ニ出願シ貼附免許狀ヲ受ケサル可ラス

貼附税ハ公示書ヲ貼附スル邑ノ屬スル郡内ノ登記局ニ納ムル者トス

塞納州ニ於テハ貼附税ヲ徴收スル爲メ登記局ヲ數個所ニ設置スヘシ

第二條　貼附税ハ各邑ヨリ差出ス所ノ左ニ叙列スル諸件ヲ記載シタル二通ノ届書ニ照シテ徴收スル者トス

一　公示書ノ明文

二　公示書ヲ記載シテ利ヲ射ントスル者及ヒ貼附請負人ノ姓名、職業、住所

三　公示書ノ幅員

四　公示書ノ全數

五　公示書ヲ記載ス可キ街衢及ヒ廣場ノ名稱

六　各街及ヒ各場ニ記載スヘキ公示書ノ員數

屆書二通ノ中一通ハ貼附稅領收ノ證トシテ登記局ニ備ヘ置キ又其一通ハ收稅吏ノ領票ヲ添ヘテ屆出人ニ還付ス可シ

正當ニ領收シタル貼附稅ハ他人ノ所爲ニヨリ公示書ヲ貼附セサリシトキト雖ニ還付セサル可シ但官衙ニ於テ貼附免許狀ヲ下付セサル時ハ此限ニ在ラス

第三條　邑官又ハ警察令ハ屆出人ヨリ第二條ニ記シタル領票ヲ添ヘタル屆書ヲ差出セシ上ニ非サレハ貼附免許狀ヲ下付ス可ラス

各免許狀ハ日字及ヒ番號ヲ逐フテ順次簿冊ニ登記ス可シ

公示書ノ各印本ノ下部ニハ免許狀ノ番號ト各印本ノ號數トヲ明記ス可シ

第四條　公示書ノ各印本ハ既納ノ幅員稅ニ相當スル幅員外ニ廣クルコヲ得ス

第五條　千八百五十二年七月八日ノ法律第三十條及ヒ本則ノ各條ニ違背スル罪ハ登記兼公領局ノ吏員又ハ警察使、備警兵、野警人及ヒ其他ノ各公力吏ノ造リタル調書ヲ以テ其證ヲ取ル可シ

第六條　犯罪ノ證ヲ取リタル備警兵、野警人及ヒ其他ノ公力吏ニハ償給ノ名義ヲ以テ犯人ヨリ追徵シタル罰金ノ四分一ヲ給與ス可シ

第七條　犯罪ノ公訴ハ檢察官ヨリ犯罪ノ行ハレタル郡ノ輕罪裁判所ニ爲ス可シ

第八條　第一條第三條ノ末項及ヒ第四條ニ違背シタル者ハ千八百五十二年七月八日ノ法律第三十條ニ記シタル刑ニ處スル可シ」

稅ヲ納メスシテ記載シタル印本又ハ既納ノ幅員稅ニ相當スル幅員ヨリモ幅廣キ印本及ヒ屆書ニ指定シタル場所ノ外ニ貼附シタル印本ハ其一個ニ付罰金ヲ追徵スル可シ

何レノ場合ニ於テモ犯則者ハ其未納稅額ヲ國庫ニ納メサル可ラス

第九條　前條ニ記シタル稅金罰金及ヒ費用ハ登記兼公領局ニ於テ之ヲ追徵ス可シ

第十條　千八百五十二年八月一日以前ニ壁面ニ公示書ヲ記載セシメタル者ハ八月一日ヨリ起算シ二箇月ノ期限內ニ本則ニ循ヒ貼附稅ヲ納付シ及ニ免許狀ヲ申受ク可シ但其期限ヲ經過スルモ貼附稅及ヒ免許狀ヲ納付セス及ヒ免許狀ヲ申受ケサル者アルニ於テハ官衙ヨリ其公示書ヲ廢棄セシム可シ

千八百五十二年十月二十日附內務卿ノ廻文ニ循ヒ邑官ニ於テ施ス可キ方法ハ左ノ如シ

第一　日子及ヒ番號ヲ逐ヒ順次ニ貼附免許狀ヲ登記ス可キ簿冊ヲ設クル事

第二　貼附稅ノ領票ヲ添ヘタル屆書ヲ差出サシメ且他人ノ權利ヲ害セサルコトヲ認メタル上ニテ貼附免許狀ヲ下付スル事

第三　登記ノ番號ヲ公示書ノ各印本ノ下部ニ明記スルヲ得セシムルカ爲メ其番號ヲ貼附免許狀ニ附記スル事

第四　登記兼公領局ノ吏員及ヒ敕書第五條ニ於テ犯罪ノ檢證ヲ委任セラレタル諸吏員ヨリ求メヲ受クルニ當リ速ニ屆書

ヲ開示スルヲ得ル爲メ其番號ヲ逐フテ之ヲ整理シ並ニ之ヲ
監守スル事
第五　貼附免許狀ヲ下付セサル場合ニ於テ既納稅金ノ返還ヲ
得ル爲メ届出人ニ必要ナル證書ヲ下付スル事

○斷案

千八百五十二年七月八日ノ法律ハ壁面又ハ屋上ヘ直接ニ記載スル所ノ公示書ノミニ係ル故ニ廣告界紙ニ印刷シ又ハ手書シテ壁面ニ嵌付シ或ハ屋上ニ貼附シ又ハ嵌脫自在ナル扁額ノ體裁ヲ以テ壁面ニ掛ケタル公示書ニハ此法律ヲ適用スルヲ得ス（千八百五十六年四月十七日アウレシュ上等裁判所）

又此法律ハ寫眞ノ定價ト寫眞師ノ住所姓名トヲ記シ且寫眞ヲ挾ミテ壁面ニ付シタル嵌脫自在ナル扁額ニ適用スルヲ得ス（千八百五十三年九月二十日破毀法院）

然レトモ此法律ハ店ノ硝子戸ノ背後ニアル嵌脫自在ナル暖簾ニ貼付ケタル公示書ニ適用スルヲ得（千八百五十七年八月廿八日巴里府上等裁判所）

住所外又ハ製作所外ノ壁面ニ記シタル商榜ハ公示書ニシテ招牌ニ非ス故ニ千八百五十二年七月八日ノ法律第三十條ニ違背スル者アル時ハ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ裁判スヘキ（千八百六十六年九月二十日破毀法院）

○第六　貼附者ノ爲ス可キ届出

○千八百三十年十二月十日公布ノ法律（摘要）

第二條　一時タリトモ印刷書、彫刻書、石摺書又ハ手書シタル書類ヲ貼附スルノ職業ヲ營マント欲スル者ハ豫メ其旨、邑官ニ届出ツ可シ

其住所ヲ轉スル時モ更ニ之ヲ届出ツ可シ

第七條　本法ノ第二條ニ違背シタル者ハ二十五法以上二百法以下ノ罰金ト六日以上一月以下ノ禁錮トニ處スル可シ但其場合ニ因リ兩刑中ノ一ニ處スルヲ得ヘシ

○斷案

千八百三十年十二月十日ノ法律第二條ノ制規ハ財產ノ販賣、地所ノ貸附等ヲ廣告スル爲メニ印刷シ又ハ手書セシ所ノ公示書ヲ自身ニ貼附シ又ハ他人ヲシテ之ヲ貼附セシメタル所有主ニ適用スルヲ得ス（グラチユ氏出版法註解）

○第七　邑官ノ職權

呼賣人及ヒ貼附者ニ關スル千八百三十年十二月十日ノ法律及ヒ呼賣人ニ係ル千八百三十四年二月十六日ノ法律ハ千七百八十九年、千七百九十年千七百九十一年ノ法律ヲ以テ邑官ニ與ヘタル職權即チ諸般ノ公示書ヲ貼附シ及ヒ呼賣スルノ免許狀ヲ下付シ幷ニ其免許狀ヲ受ケサル者ニ公示書ヲ貼附シ及ヒ呼賣スルヲ禁スルノ職權ヲ取捨シ又ハ限制シタル者ニ非ス故ニ右兩法律ハ其條款中ニ揭ケタル塲合ノミニ適用スルニ限ルヘシ（千八百四十七年十一月十二日破毀院）

邑官ハ規則書ヲ以テ地方官ヨリ免許狀ヲ申受ケス又ハ貼附者ノ姓名ヲ手書セル印本ヲ邑廳ノ取締局ニ差出サスシテ諸般ノ公示書ヲ貼附スルヲ管下人民ニ禁スルヲ得可シ（千八百四十七年十一月十二日全上）

此制規ハ動產ノ公賣ヲ廣告スル爲メ使吏ノ貼附スル公示書ニモ亦適用スルヲ得（千八百六十二年七月十九日全上）然レトモ邑官ハ公示書ヲ印刷スル者ニ豫メ其允許ヲ受クヘキノ義務ヲ命シ又官衙ノ公示書或ハ

商法裁判所ノ宣告ニ從ヒ貼附スル所ノ公示書ヲ邑廳ニ差出ス可キコトヲ命スルノ權ナシ（千八百七十年七月十日全上）

○第八　公示書ノ除去及ヒ破壞

刑法第四百七十九條摘要　左ニ記列スル者ハ十一法以上十五法以下ノ罰金ニ處ス可シ

第九　行政官ノ命令ヲ以テ貼附シタル公示書ヲ惡意ヲ以テ除去シ又ハ破壞セシ者

仝第四百八十二條摘要　第四百七十九條ニ記シタル場合ニ於テ其各犯人ニ再犯ノ罪アルトキハ五日間ノ禁錮ニ處ス可シ

○斷案

行政官ノ命令ヲ以テ貼附シタル公示書ヲ除去シ又ハ破壞セシ者アルモ公衆ヲシテ其公示書ノ文意ヲ知得スルヲ能ハサラシムルノ意ヲ以テ之ヲ爲シタル時ニ非サレハ處刑セサル者トス（千八百三十年十月五日破毀法院）

警察裁判所ハ公示書除去ノ被告人ニ惡意アリシヤ否ヤヲ審判スルノ權アリ（千八百三十年七月十四日仝上）平人ノ公示書ノ除去ハ民事上ノ訴ノミニ付スルニ止マル可シ但邑ノ規則書中ニ平人ノ公示書ヲ除去スルコトヲ禁スルノ明文アル時ハ此限ニ在ラス（刑法第四百七十一條第十五項ヲ參照シスヘシ）

○千八百五十一年九月三日達ノ警察法令

第一條　警察廳ノ管內ニ於テ一時タリトモ公路ニ印刷書、石摺書、彫刻書又ハ手書シタル書類ヲ貼附スルノ職業ヲ營マント欲スル者ハ千八百三十年十二月十八日ノ法律第二條ニ循ヒ豫メ其旨ヲ本廳ニ届出ツ可シ

貼附者轉居スルトキモ更ニ之ヲ届出ツ可シ

第二條　營業届書ハ巴里府ニ於テハ所轄警察使ヨリ又田邑ニ於テハ所轄邑長若クハ警察使ヨリ附與シタル身分證書ヲ添ヘ差出スニ非サレハ受領セサル可シ

第三條　貼附者ニハ其届書ノ公正ナル副本ヲ交附ス可シ故ニ其營業中ハ常ニ之ヲ携帶シ官吏ノ求メヲ受クル時ハ何時タリトモ之ヲ開示ス可シ

第四條　板切レ又ハ其他之レニ類似ノ方法ヲ以テ壁面ニ文字繪畫等ヲ記載スルノ職業ヲ營ム者ハ貼附者ト同一ノ義務ヲ守ル可シ

第五條　手書シタルト印刷シタルト彫刻シタルト石摺ナルトヲ問ハス凡ソ政事ニ關スル新聞又ハ論說ヲ記シタル書類ハ街衢、廣場若クハ其他ノ公場ニ貼附シ又ハ掲示スルヲ得ス但官衙ヨリ發スル書類ハ此限ニ在ラス（千八百三十年十二月十日ノ法律第一條）

姓名ヲ手署シタル候補人ノ憑見書ハ千八百五十年七月十六日公布ノ法律第十條ニ循ヒ其見本ヲ檢事局ニ差出シタル上ニテ撰舉日前二十日間之ヲ貼附スルヲ得可シ

第六條　凡ソ秘藥ノ廣告文（共和十一年芽月十一日ノ法律）又ハ官准ヲ經サル內國若クハ外國ノ富會ノ廣告文（千八百三十六年五月二十一日ノ法律第四條）或ハ度量衡ノ法ニ適セサル名稱（千八百三十七年七月四日ノ法律第五條）ヲ記シタル書類ハ街衢、廣場若クハ其他ノ公場ニ貼附シ又ハ掲示スルヲ得ス

第七條　著述者又ハ印刷人ノ姓名、職業、住所ヲ眞正ニ記サヽル印刷書ヲ貼附スルヲ禁ス（刑法第二百八十三條以下）

第八條　平人ノ公示書ニハ白紙ヲ用ユルヲ禁ス（千七百九十一年七月二十二

日決定廿八日公布ノ法律、千八百十六年四月廿八日ノ法律第六十五條及ヒ千八百十七年三月廿五日ノ法律第七十七條）

第九條　總テ公示書ハ廣告界紙ニ印刷スル可シ但法律上別ニ制規アル者ハ此限ニ在ラス（千八百十六年四月二十八日ノ法律第六十五條、第六十八條、第六十九條）

第十條　各個人及ヒ各會社ハ決定書（アレーテー）又ハ決議書（アリベラシオン）ノ名義ヲ有スル書類及ヒ義務又ハ命令（アンペラアシオン）ノ體裁ヲ有スル書類ヲ貼附スルヲ得ス故ニ其各關係人ハ必ス公示書ニ姓名ヲ手署スル可シ（千七百九十一年五月十八日公布ノ法律第十三條、全上ノ法律第十四條）

第十一條　凡ソ公示書ハ集合（コレクチーフ）ノ名義ヲ以テ貼附スルヲ得ス故ニ其各關係人ハ必ス公示書ニ姓名ヲ手署スル可シ（千七百九十一年五月十八日公布ノ法律第十三條、全上ノ法律第十四條）

第十二條　法律ノ公示書及ヒ官衙ノ書類ヲ貼附スル可キ場所ニ平人ノ公示書ヲ貼附スルヲ禁ス（全上ノ法律第十一條）但此場所ヲ距ル五「メートル」以外ニ貼附スルハ妨ケナシ

第十三條　官衙ノ命令ヲ以テ貼附シタル公示書ヲ取去リ又ハ引裂キ或ハ之ヲ覆掩スルヲ嚴禁トス

惡意ヲ以テ公示書ヲ取去リ又ハ引裂キタル者ハ刑法第四百七十九條ニ循ヒ追糺ス可シ

第十四條　政府又ハ州邑ニ屬スル公舍建物ニ公示書ヲ貼リ或ハ圖畫ヲ記スルヲ禁ス

第十五條　然レトモ當該官衙ノ允許ヲ受クルニ於テハ前條ニ記シタル建物ノ壁面ニ造レル額架ニ公示書ヲ貼附スルヲ得可シ」該額架ハ警察令ヨリ下付スル特別免許狀ニ據ルニ非サレハ設クルヲ得ス

第十六條　街巷ノ名稱及ヒ家屋ノ番號ヲ記シタル札ニ公示書ヲ貼附シテ之ヲ覆掩スルヲ禁ス

第十七條　街巷廣場十字街、埠頭等ノ隅角ヲ距ル五「メートル」以内

ニ公示書ヲ貼リ又ハ圖書ヲ記スルヲ禁ス

第十八條　觀場、舞場及ヒ寄席ノ公示書ハ巴里府ニ於テ通行ノ妨害トナラサルヲ認メラレタル場所ニ非サレハ貼附スルヲ得ス

故ニ其貼附場ノ景狀ハ必ス警察令ノ認許ニ付ス可シ

第十九條　右ノ貼附場ヲ距ル五「メートル」以内ニ劇場、觀場、舞場及ヒ寄席ノ興行ニ關セサル各種ノ廣告書ヲ貼附スルヲ禁ス

第二十條　夜間ニハ公示書ヲ貼附スルヲ嚴禁トス

第二十一條　地盤ヨリ二「メートル」五十「サンチメートル」以上ノ高處ニ公示書ヲ貼附スルヲ禁ス

第二十二條　種類ノ如何ヲ問ハス商業又ハ工業ニ關スル廣告文ヲ記載セル公示書ヲ貼リタル車ヲ公路上ニ引廻シ又ハ駐留スルヲ嚴禁トス

第二十三條　又印刷書又ハ圖畫等ヲ貼附シタル板、竿若クハ其他ノ器具ヲ携持シテ公路上ニ徘徊シ又ハ佇立スルヲ嚴禁トス

第二十四條　第二十二條及ヒ第二十三條ニ掲ケタル場合ヲ除ク外凡ソ通行ノ自由、安寧ヲ妨害セサル場合ニ於テハ特別免許狀ヲ下付ス可シ

○千八百五十八年五月十八日達、紙製公示書ニ關スル警察法令

第一條　巴里府及ヒ警察廳ノ管内ニ於テハ何人タリト雖ヒ警察令ノ允許ヲ得ルニ非サレハ公路ニ沿フタル墻塀又ハ公場ニ公示書ヲ貼附スルヲ得ス

第二條　貼附免許狀ハパレー、ド、ジユスチース區ノ警察署ニ於テ

下付ス可シ

第三條　左ニ敘列スル書類ニハ前條ノ規則ヲ適用セス

第一　行政廳ノ禀告書並ニ司法ニ關スル公告書

第二　官准ヲ經タル劇場、舞場、寄席ノ公告書

第四條　該法令ニ違背シタル罪ハ調書ヲ以テ其證ヲ取リ本廳ニ差出ス可シ本廳ハ之ヲ當該法衙ニ送移ス可シ

第五條　該法令布達前ニ貼附シタル公示書ニハ一箇月間ノ猶豫ヲ與フ但一箇月ノ期限ヲ經ルモ貼附免許狀ヲ申受ケサルニ於テハ官ヨリ其公示書ヲ棄却セシム可シ

○處分手續

第一項　刑法第二百八十三條以下ニ揭載スル輕罪ヲ檢證スル警察官ハ其呼賣シ若クハ分配シタル書類、繪畫、

肖像、公示書等ヲ押收シ且其被告人ヲ逮捕ス可シ

第二項　若シ其人心ヲ煽動スル公示書又ハ揭示書ニ係ル時ハ悉ク之ヲ剝取シテ其發見シタル場所ト時刻トヲ記ス可シ

第三項　警察官自カラ其揭示書ノ正犯ヲ探知シ又ハ其姓名ヲ告知セラレタル時ハ即時ニ其住所ニ到リテ細密ニ捜索ヲ行ヒ其處ニ見出シタル同種ノ文書及ヒ揭示書並ニ類似ノ書類ヲ悉ク押收ス可シ

第四項　其正犯及ヒ從犯ヲ逮捕ス可シ

第五項　速ニ其旨ヲ檢事ニ報知ス可シ

○調書ノ文例

千八百何年、何月、何日、余官吏ノ姓名、官職ヲ記ス著述者又ハ印刷人ノ記、

名ナキ印刷物ヲ呼賣シ若クハ分配スル者アルノ報知ヲ得タルニ因リ嚴密ニ之ヲ視察セシメタルニ著述者又ハ印刷人ノ記名ナキ何々ト題シ（印刷物ノ表題ヲ記ス）云々ノ語ヲ以テ始メ云々ノ語ヲ以テ終リタル幅員何寸、紙數何頁ナル印刷書ヲ呼賣スル現行犯、何某ヲ余ノ局ニ引致シタリ

呼賣人幾個ノ印本ヲ所持スルニ由リ余之ヲ押收シ然ル後ニ本人ヲ逮捕シタリ

余某氏（呼賣人）ニ對シ其印本ノ起原ヲ糺問シタルニ何某氏（其姓名、職業、住所ヲ記ス）ヨリ之ヲ受取リ（若シハ無ヲ以テ代價ニテ）既ニ幾部ヲ某々等ニ分配シタルヲ答述セリ（其答ヲ記ス）

呼賣人ニ其印本ヲ分配シタル人名簿ヲ差出スヘシト命シタルニ左ノ如ク答述セリ（其答ヲ記ス）

余次ニ其身体ヲ捜索シタリ（其頓末ヲ記ス）

以上檢證シタル事項ニ由テ之ヲ觀ルニ其現行犯罪ニシテ至急ヲ要スルヿ明白ナルヲ以テ余ハ某氏（從犯）ノ住所ニ到リ某氏（呼賣人）ト對質セシメタルニ左ノ如ク答述セリ（其答ヲ記ス）次ニ余既ニ押收シタル印本ヲ本人ニ展示シ其家宅ヲ精密ニ捜索スル旨ヲ告ケ其所持スル印本ヲ悉皆差出スヘキヿヲ命シタリ（其答ヲ記シ且其家宅及ヒ細工場ヲ精密ニ捜索ス）

余本人ニ印刷人ノ姓名ヲ問糺シタルニ左ノ如ク答述セリ（其答ヲ記ス）某氏（印刷人）ニ於テ印刷シタルノ證據充分ナルヲ以テ余之ヲ逮捕シタリ

是ヨリ余ハ某氏（分配者）ノ住所ニ到リテ其臥床ニ至ルマテ

精密ニ之ヲ捜索セリ（其顛末ヲ記ス）

是ニ由テ余、本書ヲ作リ之ヲ朗讀シタル後ニ被告人及ヒ證人ヲシテ之レニ其姓名ヲ手署セシメタリ（姓名ヲ手署スルヿヲ肯セサル者アル時ハ其旨ヲ附記ス）

（若シ其掲示書ニ係ル時ハ左ノ如ク記ス可シ）

余、何某氏ヨリ府又ハ邑ノ諸所ニ於テ人心ヲ煽動スル手書セル掲示書ヲ目擊シタルノ報知ヲ受ケシニ因リ即時ニ其掲示書ヲ捜索セシメタリ（第二項ニ記シタル如ク處分ス可シ）

◎警吏（原語「アジヤン、ド、ポリス」）

調書ノ部ヲ參照ス可シ

警吏トハ邏卒（アツパリトール、セルジヤン、ド、ビル、アンスペクトール、ド、ポリス、カルド、ド、コユイ）、巡査、監吏、夜警人等種々ノ名稱ヲ以テ行政警察又ハ府警察ノ勤務ニ服事スル吏員ヲ云フ

千八百七十年九月八日附ノ警察令ノ決定書ハ巴里府ノ巡査（セルジヤン、ド、ビル）ヲ廢シテ更ニ保安吏（ガルジアン、ド、ラ、ペー、ピユブリツク）ヲ設ケタリ

○警吏ノ撰任

現行法律ニ據レハ警吏ハ左ニ記スル官吏ニ於テ之ヲ撰任ス即チ巴里府ニ於テハ警察令之ヲ撰任シ（共和八年稽月十二日ノ布令）里昂（アングロメラシオン、リオネーズ）聯合區ニ於テハ羅（ローヌ）内州長之ヲ撰任シ（千八百五十一年六月十九日ノ法律）人口四萬以上ノ州都ニ於テハ邑長ノ具狀ニ因リ州長之ヲ授任シ（千八百六十七年七月二十六日ノ法律）自餘ノ州邑ニ於テハ邑長之ヲ撰任ス

各地方ノ警察事務章程ハ悉ク警吏ヲ警察使（コンミセール、ド、ポリス）ニ隷屬セシム故ニ警吏ヲ登庸スルニ付テハ警察使又ハ地方警察務ノ指揮ニ任スル警察本署長ニ協議スルヲ良トス

◎警吏ノ職務

警吏ハ公權吏員ノ資格ヲ以テ其所屬ノ全府内ニ於テ警察ノ法律及ヒ規則ノ執行ヲ監察ス

又警吏ハ公カ吏員ノ資格ヲ以テ千八百十一年六月十八日ノ敕書第七十七條ニ據リ裁判令狀ヲ執行シ及ヒ裁判宣告書ニ循ヒ犯人ヲ逮捕スルコトヲ得(千八百六十年四月五日破毀法院斷案)

○違警罪ノ檢證

千七百九十一年七月十九日決定二十二日公布ノ法律ハ還卒ヲ設ケ其巡視又ハ巡回中ニ目擊シタル違警罪ニ付キ鄰人二名ノ面前ニ於テ證告書ヲ作リ其鄰人ヲシテ之レニ姓名ヲ手署セシメルノ權利ヲ與ヘタリ然レトモ治罪法ニ於テハ此特權ヲ警吏ニ與ヘサルヲ以テ爾后警吏タル者ハ其認メル所ノ違警罪ニ付キ司法警察官吏ノ如ク眞正ノ證告書ヲ作ルコトヲ得ス(千八百四十五年四月十七日破毀法院斷接)但警吏ノ報告書ハ犯罪審判ノ爲メ事實ノ參考ニ供フルコトヲ得可シ(千八百三十八年六月十日破毀法院斷接)

然レトモ其被告人ハ警吏ノ報告書及ヒ其宣誓シタル申述アルニ拘ラス放免セラルヽコトヲ得凡ソ裁判官ニ於テ證據ノ當否ヲ判斷スルハ唯其本心ヲ以テ規矩ト爲スニ止マル者ナリ(千八百四十五年二月二十四日同上)

○輕罪ノ檢證並ニ逮捕

現行犯罪ニ非サル場合ニ於テ當該官吏ノ命令ヲ受ケス兵力ヲ以テ人民ヲ逮捕セシメ且之ヲ警察使ノ目前ニ拘引セシメタル警吏ハ各人ノ自由ヲ亂害スルノ重罪ヲ犯シタル者トス(千八百二十六年四月十三日憲納上等裁判所)

通常ノ警吏ハ司法警察ノ官吏ニ非ス故ニ獨斷ヲ以テ人民ノ住所

ニ闖入シ探偵ヲ行フノ權ナシ（千八百三十八年五月十三日「アウルツユ」上等裁判所）

職務執行中ニ罵詈ヲ受ケタルトキハ警吏ハ其犯人ヲ逮捕シテ警察使若クハ檢事ノ目前ニ拘引スルノ權アリ而シテ其夜間ナルトキハ假リニ犯人ヲ府内ノ勾禁所ニ勾禁シ即時ニ其旨ヲ長官ニ報知スルヲ得可シ（千八百六十年五月二十五日「アウルツユ」上等裁判所）

○警吏ノ暴行

刑法第百八十六條（摘要）　若シ警吏其職務ノ執行中又ハ其職務ノ執行ノ爲メ正當ノ理由ナクシテ暴行ヲ加ヘ又ハ加ヘシメタル時ハ其暴行ノ性質ト輕重トニ從ヒ處刑ス可シ但第百九十八條ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ其刑ヲ加重ス可キ者トス

正當ノ理由トハ上官ヨリ正當ニ指揮セラレタル事ヲ執行スルノ時ニ於テ暴行ヲ追退ケルノ必要ナルヲ云フ例セハ喧聚ノ場合ニ於テ解散ノ命令ヲ下スヿ第二回ノ后ニ至リ兵器ヲ使用スル等ノ如キ即チ是ナリ（千八百二十四年十月十五日破毀法院斷按）凡ソ法律ニ從ヒ及ヒ正當官吏ノ指揮ニ從ツテ爲シタル殺害毆打創傷ハ重罪ニモ非サル者トス（刑法第三百二十七條）

公力吏員ニ於テ其職務執行中ニ暴行ヲ以テスル攻撃ヲ退ケントシ又ハ其義務ヲ行フニ當リ受クル所ノ抗拒ヲ抑制セントシテ爲セシ所ノ殺害、毆打、創傷ハ正當ノ者トス

警吏一人ニテ其職務ヲ行フニ當リ不意ニ攻撃ヲ受ケタル時ハ必スシモ上官ヨリ兵器使用ノ命令ヲ受クルヿヲ要セス此場合ニ於テ警吏ノ爲シタル殺害ハ正當官吏ノ指揮ヲ受ケタル者ト等シク之ヲ看做ス可シ

○警吏ニ對スル抗命

刑法第二百九條（續要）　法律、官令、裁判宣告ヲ執行スル爲メ事ヲ行フ行政警察官吏又ハ司法警察官吏或ハ其附屬吏員ニ對スル攻撃又ハ暴行及ヒ强暴ヲ以テスル抗拒ハ其景況ニ從ヒ抗命ノ輕罪或ハ重罪ト名稱ス

抗命ノ輕罪ヲ組成スルニハ公權吏員ノ身體ニ對シ現ニ暴行ヲ加フルヲ必要トセス唯ク其委任セラレタル職務ノ執行ヲ妨碍スルヲ目的トシテ暴行ヲ爲スヲ以テ足レリトス（千八百四十九年八月十日破毀法院ノ斷按）

○警員ノ等級

警吏ハ警察勤務ノ視察及ヒ監督ニ任スル直上官ニ隷屬スル巴里府ニ於テハ此長官ヲ保安官（オピシエール、ド、ペー）ト名ケ諸州ニ於テハ之ヲ監吏（アンスペクトール、ブリガディエール）或ハ部長又保安官ハ府警察長ニ隷屬シ監吏或ハ部長ハ警察使長（コンミセール、ド、ポリス、シエフ）ニ隷屬ス」

警吏ノ通常勤務ハ地方ノ景狀ニ從ヒ異同ナキヿ能ハス故ニ其章程ハ各地方特別ノ決定書ヲ以テ之ヲ定ム巴里府ニ於テハ千八百五十六年四月十四日ノ決定書ヲ以テ警吏ノ勤務細則ヲ規定セリ今其條款ヲ拔萃シテ之ヲ左ニ揭ク

第四十條　巴里府ノ保安官ハ警察令ノ具狀ニ因リ內務卿之ヲ授任シ其係リハ警察令之ヲ命ス

第四十一條　府警察ニ屬スル自餘ノ吏員ハ警察令之ヲ授任ス

第四十二條　左ニ敘列スル約款ヲ具備スル者ニ非サレハ何人タリトヿ雖ヒ巴里府ノ巡査ニ採用セサル可シ

一　年齡二十一歲以上三十歲以下ナル者

但警軍人ニシテ其歸休證書ト軍隊服役中ノ品行方正證書トヲ所持スル者ハ三十五歲ニ至ル迄採用スヘシ

二　身幹一「メートル」七十「サンチメートル」以上ナル者
三　體格剛強ナル者
四　讀書ヲ知リ且職務ニ堪ユヘキ知能ヲ具有スル者
五　徴兵令ニ定メタル證書ノ體裁ヲ以テ付與セラレタル品行證書ヲ帶有スル者

第四十三條　府警察局ノ附屬醫長ハ巡査志願人ノ體格試驗ヲ爲スヘシ

第四十四條　次ニ府警察長ハ巡査志願人ノ伎能試驗ヲ爲スヘシ

第四十五條　醫長ノ診斷書并ニ府警察長ノ意見書ハ志願人ヨリ其願書ニ添ヘテ差出シタル書類ト共ニ之ヲ警察令ニ呈出スヘシ

第四十七條　部長、副部長（ブリガディエー、スーブリガディエー）并ニ巡査ニハ其俸給ノ外ニ左ニ記列スル被服及ヒ裝具ヲ賜給スヘシ

外套	一枚	
上着	仝	
頭巾付外套	仝	
正帽	一個	
雨帽	仝	
藍地袴	仝	
「ルウヤル」地袴	仝	
劍	一本	
劍釣	一筋	

此被服、裝具ノ使用年限ハ警察廳ニ於テ被服ニ消費スル金額一人ニ付一ケ月十二法（フラン）四十九撒（サンチム）ヲ超過セサルヲ度トシテ、之ヲ定

ム可シ

第四十八條　全府ヲ通シ一樣字號ノ巡査全時間ニ其勤務ニ服ス可シ

第四十九條　區詰保安官、本廳詰保安官及ヒ馬車係保安官ハ常ニ制服ヲ着ス可シ

大禮服着用ノ節ハ千八百四十一年二月二十日ノ決定書ニ從フ可シ

小禮服着用ノ節ハ外套ヲ上着ニ替ヘ冪帽ヲ正帽ニ替フ可シ

第五十條　部長副部長並ニ巡査ハ其被服及ヒ裝具ヲ丁寧ニ保存ス可シ

組冪ノ取扱ヲ爲シタルニ因リ破損セシメタル被服及ヒ裝具ノ修繕並ニ引替ハ總テ自辨タル可シ

第五十一條　辭職、免職又ハ其他ノ理由アリテ職ヲ退キタル部長以下巡査ハ其預リタル帶劍及ヒ劍釣ヲ返納ス可シ

客年十二月三十一日ノ決定書第四條ニ記シタル場合ニ於テハ私有品ト爲スヲヲ得ヘキ被服ノ釦鈕及ヒ其他ノ徽章モ亦仝シ

第五十二條　府警察ノ勤務ヲ大別シテ左ノ二部ト爲ス

一　通常勤務

二　特別勤務

第五十三條　通常勤務ノ要ハ諸大區（ジヒシオン）ニ於テ晝夜間斷ナク視察ヲ行フニ在リトス

第五十四條　每大區ニハ保安官一名ヲ置キ巡査三中部（ブリガード）ヲ總轄セシメ又每中部ニハ部長一名ヲ置キ之ヲ指揮セシム

每中部ハ大區內ニアル小區（セクシオン）ノ數ニ從ヒ若干ノ小部（スーブリガアド）ヲ以テ搆成

ス

又每小部ハ副部長二名ト小區内ニアル「イロー」ノ數ニ從ヒ若干名ノ巡査ヲ以テ搆成ス「イロー」トハ各小區ヲ支分シタル名ニシテ其受持巡査一名ニテ勤務中間斷ナク巡邏視察スヘキ所ヲ云フ

其外每大區ニハ若干名ノ豫備員及ヒ補助員ヲ置ク

第五十五條　每大區ノ警察勤務ハ二十四時間中ニ平均八時間ツヽ、公路ヲ巡回スルノ割合ヲ以テ三中部ニ割付クヘシ但其平均ハ七十二時間ニ採ルモノトス

每中部ハ大區ニ於テ全一中部ノ巡査常ニ在勤スルノ方法ヲ以テ交番スル可シ

一小部ノ巡査ハ一小區ノ勤務ニ服シ一巡査ハ成ル可ク常ニ一「イロー」ノ視察ニ任ス可シ

第五十六條　每大區ノ三中部ハ a、b、c ノ字號ヲ附シテ之ヲ區別ス可シ

部長以下巡査ハ其上着及ヒ外套ノ領ニ大區ノ番號、所屬ノ部號及ヒ本人席次ノ記號ヲ繕縫ス可シ

席次番號ノ順序ハ每中部最故參ノ部長ニ第一ノ番號ヲ與ヘ已下等級ヲ逐ヒ新參ノ巡査ニ最尾ノ番號ヲ附ス可シ

每大區ノ豫備員ハ a 號中部ノ職員簿ニ登錄ス可シ

第五十七條　每中部ノ交番勤務時間ハ左表ノ如ク之ヲ定ム

勤務時間	第一日	第二日	第三日
自朝七時至夕二時	a	b	c
自朝十時至夕二時	c	a	b
自夕二時至夕五時	a	b	c
自夕五時至夕九時	b	c	a
自夕九時至夜半	a	b	c
自夜半至朝七時	c	a	b

第四日	
a	
c	
a	
b	
a	
c	

午前第七時ヨリ夜半十二時ニ至ル迄ノ勤務ヲ日中勤務ト名ケ夜半十二時ヨリ午前第七時ニ至ル迄ノ勤務ヲ夜中勤務ト名ク」

日中ノ勤務中ハ巡査一名一「イロー」ノ勤務ニ服ス可シ

夜中ノ勤務ヲ二時限（ペリオード）ニ分チ毎時限ニ一小部ノ半數ハ各「イロー」ニ出務シ其半數ハ豫備員トシテ警察分署ニ在勤ス可シ但巡回中ハ兩々相伴行ス可シ

第五十八條　出番ノ中部ニ屬スル毎小部ノ巡査ハ交代時限ヨリ十五分前ニ各其所屬分署ニ參集ス可シ

最故參ノ副部長ハ各巡査ヲ點呼シ其衣裝ノ適否ト勤務ノ堪否トヲ點檢シ且之ヲ要スル時ハ新布ノ敎令等ヲ告知ス若シ巡査中荊部長ノ點呼ニ應セサル者アル時ハ直チニ豫備員ヲ以テ之ニ代ラシメ欠勤者ノ姓名ヲ報告書ニ記載ス可シ

次ニ巡査ハ各其受持「イロー」ニ出張シ所定ノ地ニ於テ退番ノ巡査ト交代ス可シ

第五十九條　巡査ハ勤務時間中絶ヘス其受持「イロー」ヲ巡邏視察ス可シ

勤務巡査ハ所定ノ時間中所定ノ方向ヲ巡回ス可シ

勤務巡査ハ娼妓ト雜話スルハ勿論其仝勤ノ者ナルト人民ナルトヲ問ハス路上ニ止リテ談話スルヲ得ス但勤務上已ムヲ得サル時ハ格別ナリトス

夜中ニ巡廻スル巡査ハ街路ノ左右ニ分レ互ニ言語ヲ交ユルヲナク專ラ其委任セラレタル視察ニ注意ス可シ

第六十條　各巡査ハ受持「イロー」內ノ住民ヲ詳知シ能ク其身體及

七財産ノ保護ニ注意スヘシ

第六十一條　勤務巡査ハ擧動疑ハシキ者ヲ視察シテ公物及ヒ私物ニ對スル總テノ輕重罪ヲ豫防スヘシ

又勤務巡査ハ警察ノ法律規則就中公路ノ自由安寧及ヒ健康ニ關スル諸規則ノ執行ニ注意スヘシ

第六十二條　巡査ハ其所屬大區ノ街衢廣場洞街袋町等ヲ詳知セサル可ラス

又巡査ハ內外國人ヨリ道路ノ尋問ヲ受クルニ當リ審ニ之ヲ敎示スルヲ得ルカ爲メ汎ク巴里府ノ諸衢洞街等ヲ知悉スヘシ

第六十三條　巡査ハ常ニ重輕罪及ヒ違警罪ヲ豫防スルノ職タルヲ心ニ銘シ其之ヲ防止スルニ能ハサルノ時ニ非サレハ退私スヘカラサルヲ片時モ忘ル可ラス

殊ニ違警罪ニ付テハ之ヲ犯サントスル者ヲ見レハ必ス先ツ其法律規則ニ違フヲ諭告シ再三ニ及ヘ𪜈猶ホ聽カサル乎又ハ其故意ニ出タルヲ明瞭ナル時ニ非サレハ檢證スルヲ勿ル可シ

第六十四條　巡査ハ其檢證シタル違警罪ノ報告書ヲ保安官ニ呈シ保安官ハ更ニ之ヲ府警察長ニ差出シテ指揮ヲ受ク可シ

又保安官ハ警察使ヨリ便宜意見書ヲ警察令ニ差出スヲ得セシムルカ爲メ每日各區ノ警察使局ニ其區內居住人ノ犯シタル違警罪表ヲ送付スヘシ

第六十五條　巡査ハ決シテ違警罪犯ヲ逮捕スヘカラス唯其住所姓名ヲ訊問スルヲ以テ足レリト爲スヘシ

第六十六條　勤務中ニ重罪犯又ハ輕罪犯ヲ逮捕シタル巡査ハ即時ニ之ヲ所轄警察使局ニ引致スヘシ而シテ直ニ其受持イロ

ー」ニ戻ルヿヲ得サル時ハ署詰副部長ニ申告シテ代人ヲ出サシム可シ

但警察使局ヲ閉チタル後ニ逮捕セシ者ハ報告書ヲ添ヘテ最近ノ分署ニ預ケ警察使局ノ開クヲ待ツテ之ヲ引致ス可シ

第六十七條　警察令ハ委員ニ命シテ巡査ノ豫防ス可キ重輕罪及ヒ違警罪ヲ一小冊子ニ編輯セシメテ各巡査ニ其一部ツヽヲ配與ス故ニ巡査ハ之ヲ講讀詳知ス可シ

第六十八條　公路上ニ負傷者若クハ發病者アルヿヲ知リ又ハ投水者等凡ソ人體ニ係ル禍害アルヿヲ知リタル巡査ハ直チニ其負傷者、發病者等ヲ最寄ノ救助屯所（ポスト、ド、スタール）ニ移サシム可シ

又巡査ハ負傷者、發病者等ヲ救助屯所ニ移サシムルト仝時ニ醫師及ヒ所轄警察使ニ其旨ヲ報知シテ應當ノ治療ヲ施サシム可シ

第六十九條　負傷者窒息者等ヲ救助スルカ爲メニ招喚スルヿヲ得ヘキ醫師ノ姓名表ハ所轄警察使ニ於テ之ヲ作リ常ニ警察分署内ニ掲示ス可シ故ニ各巡査ハ其受持「イロー」ノ最寄ニ住スル醫師ノ番地、姓名ヲ知悉セサル可ラス

第七十條　烟筒ノ出火ヲ知リタル巡査ハ即時ニ其旨ヲ最寄ノ消防屯所ニ報知シ且之ヲ所轄警察使ニ報告ス可シ

第七十一條　出火ヲ知リタル巡査ハ直チニ其區ノ消防屯所、警察分署及ヒ警察使局ニ報知ス可シ

署詰副部長ハ即時ニ豫備員ヲ率サテ火事場ニ馳付ケ且速ニ之ヲ其區ノ保安官ト巴里水道吏（アジヤン、デ、ゾー）トニ報知ス可シ

其大火ナル時ハ特使ヲ以テ府警察長ト巴里鎮臺司令將官トニ

報知ス可シ但府警察長ハ即時ニ之ヲ警察令ニ報告スル者トス

又府警察長ハ適宜若干名ノ加勢員ヲ火事場ニ派遣ス可シ

所轄警察使幷ニ其部下ニ屬スル保安官部長等火事場ニ到レハ直チニ用水ヲ供シ、鎖線ヲ造ルヿニ注意シ且秩序ヲ維持シ、各人ノ安寧ヲ保守シ及ヒ財産ヲ保護スルニ須要ナル方法ヲ施ス可シ但人命救助及ヒ焔火消防ノ指揮ハ總テ消防隊ニ委スルヲ要ス

警察使以下部長等ハ出火ノ原因ヲ知ルニ必要ナル諸案據ヲ搜索ス可シ

又警察使以下部長等ハ消防、救助等ニ於テ其功業拔群ナル者ヲ上官ニ開申ス可シ

出火ノ初發ニ其場ニ馳付タル火事場最寄ノ勤務巡査ハ加勢員ノ到着後直チニ其受持「イロー」ニ引取ル可シ

第七十二條　小部ノ勤務時間中副部長一名ハ其受持小區内ヲ巡廻シテ「イロー」受持巡査ノ勤惰ヲ檢シ且其認知シタル各犯則ヲ部長ニ申告ス可シ

第七十三條　又他ノ副部長一名ハ豫備員及ヒ補助員ト共ニ警察分署ニ在勤シ必要緊急ノ場合ニ於テ各所ニ出張スルノ用意ヲ爲ス可シ

署詰副部長ハ退番ノ巡査ヨリ其勤務時間ニ行ハレタル事件ノ報告書ヲ受取リ中央警察分署（ポストセントラル、ポリス）詰ノ部長ニ之ヲ送移ス可シ

第七十四條　署詰副部長ハ署詰豫備員ノ服容ニ付テ其責ニ任シ族ニ署内備付ノ器什ヲ毀損セサルヿニ注意ス可シ

第七十五條　午前第七時ヨリ夜半十二時ニ至ル迄ハ毎「イロー」ノ

視察ニ必要ナル人員ヲ除キ毎大區ノ巡査ト補助員トヲ以テ豫備員ヲ擁成スヘシ可シ

署詰豫備員ノ勤務時間ハ二十四時間中ニ八時三十分トス

保安官ハ事務ノ繁閑ニ從ヒ毎日若干名ノ豫備員及ヒ補助員ヲ各分署ニ配分スヘシ可シ

夜半十二時ヨリ午前第七時ニ至ル迄ハ第五十七條ノ規則ニ循ヒ分署ニ屯在スヘキ巡査ヲ以テ豫備員ヲ擁成スヘシ可シ

第七十六條　各警察分署ニハ左ニ敘列スル物品ヲ備フヘシ可シ

一　救助櫃

二　釣臺幷ニ其附屬品

三　警察使輪番表

四　區內驛頭、番地姓名表

五　巴里水道吏、番地姓名表

六　區內水桶置場表

七　消防屯所表

第七十七條　部長ハ其中部ノ勤務ニ就ク時ニ於テ所管分署中ノ一ニ在ルヘシ可シ

部長ハ順次各分署ニ在テ巡査交代ノ適否ト副部長ノ勤惰トヲ檢スヘシ可シ

又部長ハ大區ノ全部又ハ一部ヲ巡廻シテ警察勤務ヲ監督シ交代ノ時刻ニ至レハ中央分署ニ戻リ副部長ヨリ報告書ヲ受取リテ此報告書ト其視察ノ報申書トヲ保安官ニ差出スヘシ可シ

第七十八條　保安官ハ其所管大區ノ日夜勤務ノ責ニ任スル故ニ間斷ナク其持區內ノ勤務及ヒ其視察ニ注意スルヲ要ス

保安官ハ二十四時間内ニ少クモ一回各分署ヲ巡視シ且諸小區ヲ巡廻シテ部下各警員ノ行狀ヲ視察スル可シ

又保安官ハ毎日其所管大區内ニ住居スル二名以上ノ警察使ニ伺候シテ勤務上ノ指令諭旨ヲ承ク可シ

第七十九條　保安官ハ前日其持區内ニ於テ防止シ又ハ檢證シタル重輕罪、違警罪幷ニ禍害及ヒ其他ノ諸件ノ報告書ヲ作リ毎日午前第八時迄ニ之ヲ府警察長ニ差出ス可シ但此報告書ニハ「イロー」受持巡査ヨリ其持場内ニ行ハレタル事件ヲ申告シタル旨ヲ記シ若シ其之ヲ申告セサリシ時ハ申告スルヿ能ハサリシ理由ヲ記ス可シ

第八十條　保安官ハ前條ニ記シタル日報ノ外ニ各中部ノ交代後直ヲニ至急ヲ要スル重大事件ノ有無ヲ記載シタル簡單ナル報

告書ヲ府警察長ニ差出ス可シ

第八十一條　保安官ハ府警察長ノ命令ヲ受クル爲メ毎日正午ニ警察廳ニ出頭ス可シ

勤務ニ關スル教令ヲ承ケタル保安官ハ之ヲ部長ニ告知說明シ部長ヲシテ副部長ヲシテ巡査ニ逐次傳告セシメ部下ニ其意ヲ了解セサル者一人モアラサル樣深ク注意ス可シ

第八十二條　保安官ノ義務ハ能ク其部下各員ノ人トナリヲ知悉シ且部長及ヒ副部長ヲシテ其部下各員ノ人トナリヲ知悉スルヿニ注意スルニ在リトス

保安官ハ時々其部下ノ各員ニ疑問ヲ爲シテ能ク其職務ノ性質ヲ了解セシメ且各員ノ品行勤惰智能ヲ熟知シ進級セシム可キ者アレハ府警察長ニ之ヲ上申ス可シ

第八十三條　保安官ハ其所管大區内ニ住居スヘシ

部長モ亦其所管大區内ニ住居スヘシ

副部長以下巡査ハ各自其所管小區内ニ住居スヘシ

警員止宿所ノ設ケアル時ハ保安官以下巡査ニ至ル迄總テ此止宿所ニ止宿スヘシ

但副部長以下巡査ニ限リ所管小區ノ家賃非常ニ貴キカ爲メ其區内ニ止宿シ難キ時ハ府警察長ニ出願シ允許ヲ得タル上ニテ最近ノ小區内ニ止宿スルヲ得可シ

第八十四條　特別勤務ハ左ノ如シ

一　本廳詰

二　馬車係

三　警衛係

四　貸家係

五　衛生係

六　國事係

第八十五條　本廳詰亦分ツテ五部ト爲シ每部左ノ人員ヲ以テ搆成ス

保安官　一名

部長　一名

副部長　四名（但ポロー、プウロー、ギュ公園係二名ハ除ク）

巡査　五十名

本廳詰ハ府警察長ニ隷屬シ警察廳ニ在テ豫備勤務ニ服シ秩序ヲ保持スルニ必要ナル各所ニ出張ス

又本廳詰ハ劇場、踊場、公禮祭式等ノ勤務ニ任ス

本廳詰ノ一部ハ「シャンゼリゼー」及ヒ「ボワー、ブウロー、ギュ」兩公園地ノ視察ニ特任ス

第八十六條　馬車係ハ保安官一名部長一名副部長四名及ヒ巡査六十名ヲ以テ搆成シ貸馬車等ニ係ル法律規則ノ執行ニ任ス

馬車係ハ毎日巡査若干名ヲ派遣シテ劇場、踊場、公禮祭式等ニ來往スル馬車ノ發着ヲ保固ス

馬車係保安官ハ府警察長ニ隷屬シテ右ニ記シタル勤務ノ外ニ貸馬車及ヒ其立場ノ視察ニ任スル警員ヲ指揮ス

該警員ハ左ノ人員ヲ以テ搆成ス

巡邏監督　四名

補助監督　四名

立番巡査　七十八名

貸馬車立場監視係ノ搆成ニ係ル千八百四十一年一月十五日ノ決定書ハ其勤務ノ指揮ニ關スル者ヲ除ク外總テ從前ノ通リ執行ス可シ

第八十七條　安寧係ハ保安官一名部長五名副部長二名監吏九十六名ヲ以テ搆成シ兇徒ノ探偵住所ヲ脫シ府下ニ潛伏スル監置人ノ捜索幷ニ逮捕狀裁判宣告書等ノ執行ニ任ス

安寧係保安官ハ執行ノ委任ヲ受ケタル引致狀又ハ逮捕狀ノ目錄幷ニ裁判宣告書求刑書等ノ摘撮書ヲ毎月府警察長ヲ經由シテ警察令ニ差出ス可シ

第八十八條　貸家係ハ保安官一名部長一名副部長五名監吏百十名ヲ以テ搆成シ旅館及ヒ造作附貸家ニ關スル諸規則ノ執行ニ任ス

貸家係ハ亡命者及ヒ一般ニ外國人ヲ視察シ且賭博場及ヒ秘密
白鴿會ノ探偵ニ任ス
第八十九條　風俗係ハ保安官一名、部長一名監吏三十名ヲ以テ搆
成シ妓樓ヲ監視シ密賣淫ヲ制止シ及ヒ一般ニ娼妓ニ關スル諸
規則ノ執行ニ任ス
第九十條　國事係ハ三部ニ分レ各部、保安官一名、部長一名監吏二
十名ヲ以テ搆成シ專ラ國事ノ警察ニ任ス
國事係ハ警察令自カラ之ヲ指揮ス故ニ該係保安官ハ其報告書
ヲ直ニ警察令又ハ其指定シタル吏員ニ差出ス可シ
第九十一條　員外ノ巡査六十名及ヒ補助員十名ハ內務省、鐵道局、
師團憲隊局等ニ出務ス
府警察長ハ員外巡査中ヨリ一小部又ハ二小部ヲ出シ監吏長ヲ

シテ之ヲ指揮セシメ人民ヨリ依頼スル探偵ヲ行ハシム
員外巡査モ亦警察廳內ニ其詰所ヲ置ク其事務章程ハ府警察長
ニ於テ之ヲ規定ス可シ
員外巡査ノ詰所ハ拘留人、證告書及ヒ證據物件ヲ受取ルカ爲メ
晝夜ヲ問ハス之ヲ開キ置ク可シ
府警察ニ屬スル特別勤務ノ外ニ一時數名ノ警員ヲ警察使、各課
長等ニ付スルノ必要ナル時ハ府警察長ニ於テ其警員ヲ大區ノ
豫備員中ニ採ルコトヲ得可シ決シテ之ヲ巡査及ヒ監吏中ニ採ル
可ラス
第九十二條　監吏長ハ確然何レノ係リニモ屬スルコトナク時ノ都
合ニ因リ或ハ特別ノ職務ニ服シ或ハ各係ノ勤務ニ服シ或ハ各
區ノ勤務ニ服スル者トス